

2009

子どもゆめ基金<sup>®</sup>  
ガイド



独立行政法人  
国立青少年教育振興機構



## 目次

---

「子どもゆめ基金」について	1
「子どもゆめ基金」の概要	2
平成21年度 応募・採択状況	4
平成14～20年度 応募・採択状況	6
平成20年度助成活動事例(子どもの体験活動)	7
平成20年度助成活動事例(子どもの読書活動)	28
平成20年度助成活動事例(教材開発・普及活動)	36
普及啓発事業の実例	38
「子どもゆめ基金」への寄附団体	40

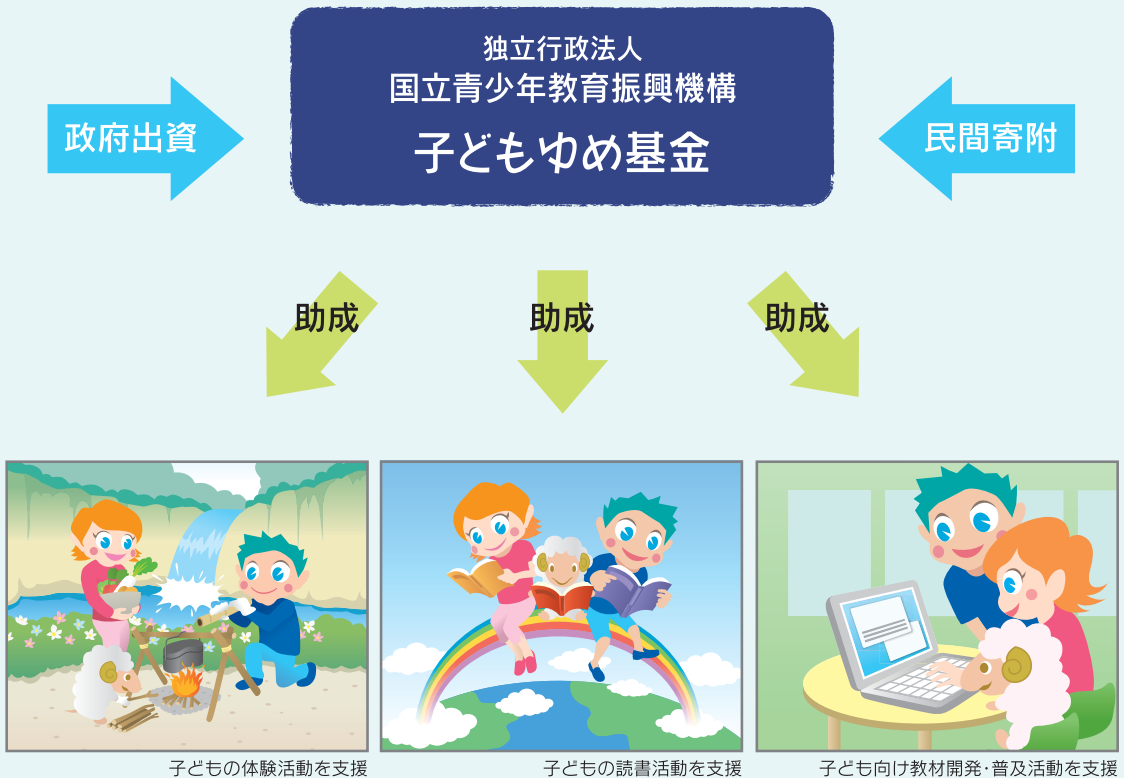
# 「子どもゆめ基金」について

今日、社会全体のモラルの低下、地域社会の教育力の低下、メディア上の有害情報の氾濫など子どもたちを取り巻く環境が大きく変化しており、自分自身で考え創造する力、他人への思いやりの精神が身についていないと指摘されています。また、子どもたちの社会性を育成する観点から、自然体験活動等の体験活動の充実や、言葉の教育の重視などが提言されております。

このような状況を踏まえて、「子どもゆめ基金」は、超党派の国会議員により構成される「子どもの未来を考える議員連盟」が子どもの未来のために有意義な基金の創設を発意し、

同議員連盟が中心となって検討を進めてきたものを受け、平成13年度政府予算において措置された政府からの出資金100億円に加え、民間からの寄附を原資とする基金として創設されました。

この基金は、未来を担う夢を持った子どもの健全な育成の一層の推進を図ることを目的に、民間団体が実施する特色ある新たな取り組みや、体験活動等の裾野を広げるような活動を中心に、様々な体験活動や読書活動等への支援を行っています。



# 「子どもゆめ基金」の概要

## 助成金の交付

### 助成対象活動

#### 子どもの体験活動の振興を図る活動への助成

##### 活動例

- ①子どもを対象とする体験活動
  - ・自然観察、キャンプなどの自然体験活動
  - ・清掃活動、高齢者介護体験などの社会奉仕体験活動 など
- ②子どもの体験活動を支援する活動
  - ・子どもの体験活動の指導者養成 など



#### 子どもの読書活動の振興を図る活動への助成

##### 活動例

- ①子どもを対象とする読書活動
  - ・読書会活動、読み聞かせ会 など
- ②子どもの読書活動を支援する活動
  - ・子どもの読書活動の振興を図るフォーラムの開催 など



#### 子ども向けソフト教材を開発・普及する活動への助成

##### 活動例

- ・子どもの体験活動や読書活動を支援・補完する、インターネット等で利用可能なデジタル教材を開発し、普及する活動



### 助成対象団体

民法法人、NPO法人など青少年教育に関する事業を行う民間の団体

## 普及啓発

子どもの体験活動や読書活動の振興を図るための普及啓発（子どもゆめ基金ガイドの作成、子どもゆめ基金PRビデオの作成、普及啓発事業の実施 等）



## 助成金の額

個別の助成活動に対する助成金の額は、予算の範囲内で、審査委員会の議を経て決定されます。

## 審査方法

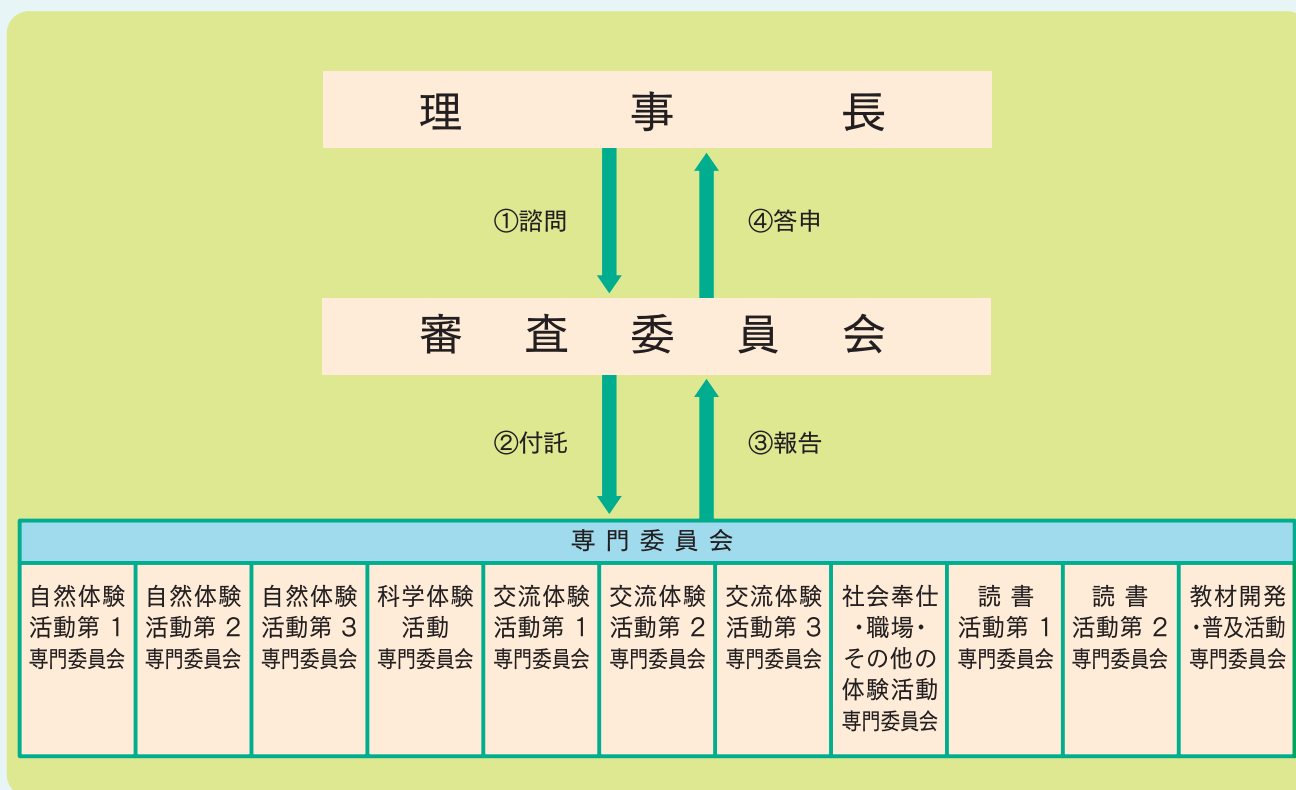
子どもゆめ基金における助成対象活動の決定については、子どもゆめ基金による助成金の交付を適正に行うため、自然体験活動や社会奉仕体験活動等の体験活動、読書活動、教材開発などの分野において実務経験を持ち、かつ青少年教育に高い識見を有する委員で構成する「子どもゆめ基金審査委員会」

を設置し、そのもとに各分野別の実情及び特性を踏まえて審査を行います。

応募のあった活動については、機構理事長から審査委員会へ助成活動の採択について諮問を行い、これを受けて審査委員会から専門委員会へ調査審議の付託を行います。

専門委員会の審査は、各団体から提出のあった助成金計画調書について、各専門委員が専門的見地から評価し、合議により助成対象活動の評定(選定)を行います。

審査委員会では、各専門委員会での審査結果をもとに、採択すべき助成活動及び助成金の額について審議を行い、採択する活動及び助成金額を決定します。



# 平成21年度 応募・採択状況

活動区分別応募・採択状況

(単位:千円)

活動区分	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	2,209	1,725	1,156,007
子どもの読書活動	542	464	226,490
教材開発・普及活動	82	29	289,590
合計	2,833	2,218	1,672,087

子どもの体験活動都道府県別応募・採択状況

(単位:千円)

都道府県	応募件数	採択件数	交付内定額
北海道	134	105	68,075
青森県	17	13	5,995
岩手県	28	25	14,669
宮城県	21	17	9,983
秋田県	15	11	4,359
山形県	16	15	12,269
福島県	28	21	10,602
茨城県	39	30	19,040
栃木県	38	28	13,455
群馬県	22	19	11,878
埼玉県	63	48	25,903
千葉県	76	54	31,063
東京都	329	256	308,406
神奈川県	68	48	32,224
新潟県	44	40	19,616
富山県	17	15	10,737
石川県	26	23	15,583
福井県	26	21	22,757
山梨県	17	14	16,165
長野県	66	50	42,133
岐阜県	35	31	14,520
静岡県	51	33	23,611
愛知県	60	49	25,497
三重県	17	13	4,654

都道府県	応募件数	採択件数	交付内定額
滋賀県	56	46	15,021
京都府	61	50	32,194
大阪府	198	153	71,798
兵庫県	96	74	38,988
奈良県	19	17	7,175
和歌山県	27	16	7,524
鳥取県	11	9	2,759
島根県	16	7	4,503
岡山県	23	20	12,251
広島県	30	24	17,412
山口県	20	17	6,095
徳島県	36	31	16,522
香川県	16	9	3,305
愛媛県	22	19	8,796
高知県	15	11	3,997
福岡県	90	63	32,341
佐賀県	6	6	3,534
長崎県	25	20	15,151
熊本県	64	53	33,704
大分県	21	16	10,194
宮崎県	21	17	8,396
鹿児島県	63	56	32,928
沖縄県	20	12	8,225
合計	2,209	1,725	1,156,007

※応募団体の所在地である都道府県別に集計した件数・金額である。(以下、同じ)

子どもの読書活動都道府県別応募・採択状況

(単位:千円)

都道府県	応募件数	採択件数	交付内定額
北海道	31	24	11,197
青森県	3	2	476
岩手県	8	7	1,807
宮城県	4	3	3,266
秋田県	13	12	3,345
山形県	1	1	295
福島県	7	7	6,404
茨城県	5	3	858
栃木県	8	7	2,937
群馬県	2	2	523
埼玉県	12	9	4,254
千葉県	14	14	3,662
東京都	62	54	68,086
神奈川県	17	16	4,795
新潟県	16	14	3,782
富山県	2	1	1,199
石川県	4	4	2,391
福井県	6	6	1,745
山梨県	10	10	2,202
長野県	16	14	5,660
岐阜県	10	8	1,930
静岡県	13	10	2,950
愛知県	8	6	1,749
三重県	6	6	2,446

都道府県	応募件数	採択件数	交付内定額
滋賀県	17	17	5,980
京都府	12	12	4,061
大阪府	50	44	11,613
兵庫県	13	13	5,764
奈良県	3	3	1,256
和歌山県	5	4	1,716
鳥取県	2	2	1,962
島根県	13	12	8,277
岡山県	10	8	2,266
広島県	1	1	210
山口県	5	5	4,768
徳島県	6	5	950
香川県	7	7	1,799
愛媛県	10	1	128
高知県	4	4	1,405
福岡県	25	23	7,455
佐賀県	4	2	535
長崎県	10	8	2,447
熊本県	16	14	9,271
大分県	8	5	2,349
宮崎県	16	14	5,981
鹿児島県	20	18	7,955
沖縄県	7	2	383
合計	542	464	226,490

教材開発・普及活動都道府県別応募・採択状況

(単位:千円)

都道府県	応募件数	採択件数	交付内定額
北海道	1	0	0
岩手県	1	1	12,965
秋田県	1	0	0
茨城県	1	0	0
群馬県	1	1	7,133
埼玉県	2	0	0
千葉県	6	4	33,572
東京都	32	14	141,376
神奈川県	1	0	0
富山県	2	0	0
石川県	1	0	0
長野県	3	1	12,330
岐阜県	7	3	28,334
静岡県	2	0	0

都道府県	応募件数	採択件数	交付内定額
愛知県	1	0	0
京都府	1	1	7,674
大阪府	4	1	13,749
兵庫県	3	1	9,778
島根県	2	1	11,605
岡山県	2	0	0
広島県	2	1	11,074
山口県	1	0	0
愛媛県	1	0	0
福岡県	1	0	0
熊本県	1	0	0
鹿児島県	1	0	0
沖縄県	1	0	0
合計	82	29	289,590

# 平成14～20年度 応募・採択状況

平成14年度

(単位:千円)

活動区分	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	1,813	1,590	1,141,906
子どもの読書活動	352	322	129,104
教材開発・普及活動	80	28	278,804
合計	2,245	1,940	1,549,814

平成15年度

(単位:千円)

活動区分	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	1,910	1,723	1,275,061
子どもの読書活動	356	320	170,860
教材開発・普及活動	94	27	247,493
合計	2,360	2,070	1,693,414

平成16年度

(単位:千円)

活動区分	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	1,837	1,611	1,319,642
子どもの読書活動	351	317	209,506
教材開発・普及活動	94	23	232,335
合計	2,282	1,951	1,761,483

平成17年度

(単位:千円)

活動区分	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	1,812	1,690	1,419,241
子どもの読書活動	325	299	227,268
教材開発・普及活動	91	27	259,884
合計	2,228	2,016	1,906,393

平成18年度

(単位:千円)

活動区分	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	2,532	2,022	1,214,730
子どもの読書活動	549	427	192,908
教材開発・普及活動	103	28	230,150
合計	3,184	2,477	1,637,788

平成19年度

(単位:千円)

活動区分	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	2,441	1,848	1,182,549
子どもの読書活動	523	464	210,771
教材開発・普及活動	112	30	244,544
合計	3,076	2,342	1,637,864

平成20年度

(単位:千円)

活動区分	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	2,231	1,705	1,159,493
子どもの読書活動	516	450	219,390
教材開発・普及活動	84	28	278,581
合計	2,831	2,183	1,657,464

# 子どものための自然・生活体験プログラム'08 不登校児童・生徒のための体験活動『Hop! Step! Jump!』

募集対象 小1～高3の不登校児童生徒／ 活動期間 平成20年4月29日～平成21年1月5日

実施団体名 特定非営利活動法人 静岡県キャンプカウンセラー協会  
連絡先 〒422-8056 静岡市駿河区津島町14-26  
TEL:054-283-5970  
E-mail:npocaos@mac.com

## 活動の概要

静岡県内の不登校の子どもたちを対象として、小集団での体験活動を毎月1回ずつ、10ヶ月間継続的に実施した。毎回8名から10名の参加者と5名の指導者が、日中の4時間半、お昼ごはんをはさんで活動を行った。

対象となる子どもたちは、普段から生活の範囲が限られやすく、様々な生活・自然体験や人との関わりが不足しがちである。そのため、五感を使ったり、体を動かしたりする遊び、料理やクラフトなどの創造的な活動を多く取り入れた。また、子どもたちが活動を自分の意志で選び、のびのびと取り組めるようにすることで、まずは活動自体を楽しむところから、徐々に参加者同士の関わる場面を増やしていくようにした。

## 活動の内容

慣れない場所での活動は、子どもたちに対して不安や緊張を感じさせるものである。活動を展開するにあたり、指導者としてそのような状態の子どもたちを受け入れる姿勢を持つこと、ゆったりとした活動の枠を設けることで、子どもたちが安心感をもって自分の居場所を作り、人の中で徐々に自分を表現していけるような空間をつくることなどを心がけた。

参加者の多くは、集団で活動する事が苦手であるので、まずは指導者と子どもの関係を作り、徐々に全体での活動が展開できるように配慮した。その為、午前中は個人で取り組めるもの、午後は集団で遊ぶものといった流れを基本として、参加

者に合わせて内容の調整をした。全体的には継続的な参加を通して、徐々に集団での関わりがある活動が増えるように構成した。



ウッドキーホルダー作り

## 成果と課題

参加者は、はじめの頃、個人で遊ぶことが多く、指導者と一对一の場面が多かった。取り組み方も、休憩しながらや他の事をやりながらなど、参加者それぞれのペースを大事にした。回が進むにつれて、個々での遊びから一緒に遊ぶ姿が見られたり、食事作りのメニューや食材を相談したりするなど、参加者同士のやりとりが徐々に増えはじめた。また、活動をしていく中で、自分でできることを探してやろうとするなど、みんなと一緒に活動していくという意識が見られるようになった。



パン食い競争



パン作り

後半に入ると、活動の内容をみんなと相談して決めることができたり、遊びの中で年齢に合わせたルールを作ったりと互いの様子を見ながら遊ぶこともできるようになった。それぞれのペースで参加しながらもみんなで同じ場所にいられるようになり、集団としてまとまりを見せるようになっていった。

限定された小さな集団だが、人と関係性を保ちつつ、安心して自分を表現できる居場所を作ることができたことは、参加者の自信につながったと考えられる。

子どもたちが安心して過ごせる集団を作るには、安定した関係を築ける指導者を育成することが重要であると考えている。子どもとの関わりはある程度の深みを持って取り組む必要があり、指導者の育成には時間を要する。今後は指導者育成の機会も数多く設けていく必要性を感じている。



科学で遊ぼう

## 団体の概要

特定非営利活動法人静岡県キャンプカウンセラー協会は、キャンプという非日常での体験を通し、子どもたちに自然・仲間・自分自身とのより良い関係作りの場を提供するため、年間を通して様々な自然体験活動を主催しているほか、指導者の派遣・プログラムの提供などを実施しています。



# 青森県横断子ども冒険キャンプ

**募集対象** 小3～中学生／ **活動期間** 平成20年8月14日～8月22日  
**実施団体名** 特定非営利活動法人 岩木山自然学校  
**連絡先** 〒036-1345 青森県弘前市大字常盤野字黒森12-5  
 TEL:0172-83-2670 FAX:0172-83-2670  
 E-mail:pwonder@infoamori.ne.jp URL:www.infoamori.ne.jp/pensionwonderland/

## 活動の概要

太平洋の日の出から日本海の日の入りまで、青森県内でいろいろな体験活動しながら横断するものです。



太平洋の日の出

このキャンプでは、全国から集まった子ども達との交流と、各自が9日間の活動に対する目標を設定し、楽しくも苦しい活動をやりとげること目標にがんばります。



牧場体験



十和田湖カヌー横断

## 活動の内容

- 1日目 集合開会式とカヌー教室
- 2日目 太平洋の日の出体験と牧場で乗馬体験
- 3日目 八甲田山登山
- 4日目 奥入瀬トレッキング
- 5日目 十和田湖カヌー横断
- 6日目 白神山地トレッキング
- 7日目 岩木山登山
- 8日目 日本海の夕陽体験と海の体験
- 9日目 全日程のキャンプ振り返り



八甲田山登山



夕食のメニュー

スタッフが一番苦労したことは、毎日の食事作りです。参加者とスタッフ合わせて30数名の食事を朝昼晩3食9日間作り続けなければなりません。毎日移動しながらのキャンプ生活の為、移動途中に食料を調達し、キャンプ地で薪ストーブを使用し煮炊きします。毎日違った食事メニューを考え、子ども達が喜んでたくさん食べてくれるような食事作りに、悪戦苦闘の日々でした。



キャンプ地でのテント設営



白神山地雨の森へ

## 成果と課題

8泊9日の長いキャンプ活動を通し、人と人の係わり、交わりの難しさ、自然の素晴らしさ、そして雨による自然体験のできない厳しさ、毎日続く自分の生活リズムをつくる難しさ、いずれも困難を乗り越え、一つずつ学び覚えた事は、いつまでも体で記憶していくことでしよう。それらは、彼らにとって長い人生の一つの糧になってくれるものと信じています。この活動には、多くの大人の力が必要で、毎年サポートしてくれるスタッフ確保が難しくなっており、人材と資金の確保が課題です。

## 団体の概要

青森県の豊かな自然環境を学び場として、子どもから大人まで幅広く対象に、様々な自然体験を通し、自然の素晴らしさ、大切さ、畏敬の心を育み、いろいろな環境問題を身近なものとして捉え、問題解決に向かう事のできる人材の育成を行うことにより、持続可能な社会づくりに貢献することを目的としています。

# くずまき高原牧場スノーワンダーランド2009

**募集対象** 小1～中3 / **活動期間** 平成21年1月5日～1月18日

**実施団体名** くずまき高原牧場スノーワンダーランド実行委員会  
**連絡先** 〒028-5402 岩手県岩手郡葛巻町葛巻40-57-125  
 TEL:0195-66-0555 FAX:0195-66-0511  
 E-mail:kimura@kuzumaki.jp URL: http://www.kuzumaki.jp/

## 活動の概要

当該活動は、全国の小学校1年生～中学校3年生を対象とした13泊14日の真冬の子ども長期自然体験教育活動です。

活動は男女混合、異年齢のグループを編成し行います。さまざまな自然体験、酪農体験、生活体験、社会体験を通じて、青少年の「生きる力」を育むことを目的としています。具体的には、何事にも自ら一歩踏みだし取り組む主体性や自然や動物の不思議に目をひらく感性を育てるとともに、共同生活を通じて仲間との関わりについて学びます。

## 活動の内容

全国でも稀な厳寒期における2週間の子ども長期自然体験教育活動「スノーワンダーランド」の基幹プログラムは3つあげられます。一つ目は、くずまき高原牧場でのお世話を中心とした毎朝7時からの酪農体験プログラム。二つ目は、イヌイットが狩りに出るときに宿泊するために使うイグルーでの雪中キャンプ生活。三つ目は、地元酪農家への2泊3日間に渡る酪農体験ホームステイです。

さらにこのキャンプでは、体験学習法に主眼を置き、宿泊生活の中で仲間との共同作業の場面を数多く設定していることです。様々な活動を直接体験



酪農ホームステイ

することで、自分自信に気づき、仲間にも気づき、そしてキャンプを共に作り上げていく過程を大切にしながらグループの成長を促します。



アニマルトラッキングの様子

## グループの成長プロセスと活動の位置づけ

- 1日目 フォーミング  
開村式、出会いと仲間作り、名札作り
- 2日目 フォーミング  
班の目標作りと発表、酪農体験
- 3日目 ストリーミング、ノーミング  
朝の酪農体験、アニマルトラッキング
- 4日目 ストリーミング、ノーミング  
朝の酪農体験、アニマルトラッキング発表会
- 5日目 ストリーミング、ノーミング  
朝の酪農体験、雪中大運動会、星座観察
- 6日目 ストリーミング、ノーミング  
朝の酪農体験、酪農ホームステイ
- 7日目 ストリーミング、ノーミング  
酪農ホームステイ
- 8日目 ストリーミング、ノーミング  
ホームステイ解散式、イグルー設計
- 9日目 ストリーミング、ノーミング、パフォーマンス  
朝の酪農体験、イグルー作り
- 10日目 ストリーミング、ノーミング、パフォーマンス  
朝の酪農体験、イグルー作り
- 11日目 ストリーミング、ノーミング、パフォーマンス  
イグルー作り、雪中泊、自炊
- 12日目 ストリーミング、ノーミング、パフォーマンス  
心残りタイム、雪中泊、自炊
- 13日目 パフォーマンス、トランスフォーミング  
スノーシアター作り、スタンツ
- 14日目 トランスフォーミング  
振り返り、閉村式

## グループの成長プロセスの説明

1. フォーミング(初期の段階)  
互いがまだ見えない
2. ストリーミング(対立や混乱の状況)  
意見のぶつかり合い
3. ノーミング(規範・ルールが作られる)  
ストリーミングの問題を解決するルール作り
4. パフォーマンス(グループの力を発揮)  
お互いの役割を理解してチームとして力を発揮する
5. トランスフォーミング(次へのステップ)  
グループを振り返り新たなグループへ向かう



イグルー作りの様子

## 成果と課題

### ◆成果

1. 異年齢、男女混合の班構成や、衣食住を共にする共同生活体験、班の中での目標設定やルール作りを通して、協調性や問題解決力が養われた。
2. 共同生活の中で不意に起こる出来事(不確実性)を多く経験することで、状況変化に適応できる豊かな感情が育まれた。
3. 酪農体験を通じて出会う多くの驚き・感動・気づきから、生き物への親しみ、いのちを大切にできる心が養われた。
4. 冒険的な活動を通して、自ら一歩踏み出す勇気(主体性)が育まれた。

### ◆課題

1. 長期宿泊研修のため、キャンプカウンセラーの確保は毎年の課題です。団体独自のボランティアスタッフの組織を構築し、育成・派遣を行うことが望ましいと考えています。

## 団体の概要

この会は、くずまき高原牧場を拠点に、冬期間における「子ども長期自然体験活動」を実施するとともに、自然体験教育活動、酪農体験教育活動や地区住民との郷土生活体験を通じて、青少年の「生きる力」を育むことを目的に2000年に発足しました。



# 子どもの自然体験活動2008

募集対象 幼児年中～小4／ 活動期間 平成20年6月1日～平成21年3月1日

実施団体名 ドルフィンスポーツアカデミー  
 連絡先 〒164-0014 東京都中野区南台2-18-3-101  
 TEL:03-5342-6656 FAX:03-5342-6658  
 E-mail:info@dolphin-sa.com URL:http://www.dolphin-sa.com

## 活動の概要

「自然体験の第一歩」と位置付けた低学年児対象の日帰り活動。共に過ごす人間同士が心地良い関係を築き、同時に野外での身体運動によって充足感や爽快感を得ることを狙いとししました。子どもたちにとって身近な場である公園を活動フィールドとし、身近ながらも新たな気付きや楽しさを得られるようプログラムを構成。「大自然の中で心も身体も安全に楽しむ」という最終目標に導く為の基盤作りです。

より多くの子どもたちが自然体験への期待を抱いてくれることを目指し、当活動は二度の実施機会(6月と3月)を設けました。

## 活動の内容

### 「人 ～個からグループへ～」

午前は「人」をキーワードに、広い野原で自己表現＆コミュニケーションを活性化させるゲームを実施。自由な発想による即興表現を通して、自身の主張や思いを発する喜びを知り、他者を肯定することによって生まれる連帯感を実感することが狙いでした。表現は個からグループによる創造へと発展。即興演劇に精通する鈴木聡之氏がプログラム講師を務め、子どもたちの想像力＆創造力を引き出す多様な題材を提示しました。

アイスブレイクとして単純に大声を



コミュニケーションを活性化させるゲーム

出すことからスタート。無邪気な発声により自己の存在を集団の中で確立させるきっかけを掴みます。更にネームトス(お互いの名を呼び合う)によって他者の存在を認識し始め、心と身体との距離を縮めていきました。

中盤は様々な事物を身体だけで即興的に表現するゲームを実施。架空の食物や動物をキャッチボールのようにグループの中で廻し、時にそれらは子どもたちの自由な発想が加えられ、



広場で大きく身体を動かして遊ぶ

大きくなったり、軽くなったり、色付いたり、複数に増えてたりと、多くのハプニングを起こしました。また“感情”を身体で表す際には、60人60通りの表現法があり、豊かな個性が発揮されました。

終盤はグループでひとつの事象・事物を組み立てました。アイコンタクトのみ、僅か10秒で構築する乗り物や動物は、個性だけでは成し得ない団結力を示すものでした。

### 「自然 ～新たな発見と挑戦～」

午後は「自然」をテーマにオリエンテーリング「難関突破大作戦」を実施。自身の足で新たな環境に進むこと、地図に親しみ目的地に辿り着くことが自然体験活動の礎になることを伝えました。

成功(時に失敗)から学ぶことを目的とし、その挑戦過程において積極的な対話を求めました。園内の地形や地勢、自然物を活かし「イニシアチブゲーム」の要素を組み込んだ“難関”をチ



自然地形を活かした課題解決ゲーム

ェックポイントに配置。支え合い、発想の転換、観察力、個性に応じた役割分担などによって課題が解決に導かれ、グループが達成感に包まれました。午前の「人」をテーマにしたプログラムが伏線となり相乗効果を生んだといえます。

### 「人と自然 ～ファイナルアート～」

一日のハイライトを静止ポーズでグループごとに再現。各シーンを即興で蘇らせ、今一度身体表現をもってプログラムの締めくくりとしました。

## 成果と課題

物質に依存せず「とことん遊ぶ充足感」を目指すコンセプトに共感してもらえる機会となりました。しかし「自然体験の第一歩」という位置付けながら、今後への強い欲求や新たな冒険心に直結させるのは難しく、当活動をもって満足してしまう子もいました。次段階へと繋げる意義を子どもたちや保護者の方に問いかける重要性、そして継続的な体験へと着実に導く必要性を感じています。



即興表現は個からグループへ

## 団体の概要

幼児から高校生を対象とした自然体験活動を主催・運営。日帰り～長期のキャンプ活動、スキー教室などを行っています。自然の中でシンプルにとことん遊ぶこと、実体験によって得られる感覚を大切にし、活動を経て人と人がつながり、夢や希望を見出すきっかけ作りを行っています。

# 地域まるごと「ESD自然学校」大作戦

**募集対象** 小中高校生と保護者／ **活動期間** 平成20年5月17日～平成21年2月21日

**実施団体名** 大野ESD自然学校実行委員会

**連絡先** 〒891-2104 鹿児島県垂水市田神3754 大野地区公民館別館(旧大野小中学校)内

TEL:0994-32-0156 FAX:0994-32-0156

E-mail:oonoesd@city.tarumizu.kagoshima.jp URL: <http://www.city.tarumizu.kagoshima.jp/esd/>

## 活動の概要

鹿児島県垂水市大野地区は、自然豊かな地で、標高約550mという高原の気候を活かした農業が営まれている土地です。この大野での農業体験を柱に、様々な体験活動を提供することが、「地域まるごと「ESD自然学校」大作戦」のねらいです。

## 活動の内容

活動の中心は、年間を通じた農業体験です。地元大野地区の農家の方に講師を依頼し、様々な野菜を作りました。作業はなるべく手作業で行い、農薬も殆ど使用しないようにしました。サツマイモ、ピーナッツ、人参、ジャガイモ、ソバ、大根等の根菜類など、1年を通じて作物の世話に汗を流し、収穫を楽しみました。子ども達は、体験を通して「農業の大変さと魅力」「食べる＝命をいただくということ」「土に触れる喜び」といったことだけでなく、農業を通しての「人とのつながり」といったことまで感じてもらえたようです。

また、農業体験だけでなく、年8回の活動を通じ、大野ウォークラリー、ソーメン流し、沢遊び、サツマイモ



演習林内での沢遊び

の加工、伝承遊び、ソバ打ち体験、森林散策、分子模型作り、お菓子作りなどの様々な体験活動を実施しました。

鹿児島大学との提携があることから、自然豊かな大野地区だけでなく、自然学校に隣接する農学部高隈演習林をフィールドとして使用できるという強みがあります。そのため、川遊びや森林散策など、雄大な自然を、五感を使って思い切り楽しむことができました。



農業体験(ピーナッツの植付)

また、ただ体験を楽しむだけでなく、様々な学びの要素をちりばめ、いろいろなことを“気づき、考え、感じる”こともねらいの一つとしておりました。例えば、演習林内での活動では、森林や水の役割や、森林と人間との関係といったことも感じてもらえたようです。また、分子模型作りでは大野地区で現代も生産されている炭について、科学的に学ぶことができました。

また、ソバ打ち体験、お菓子作りといった生活文化に係る体験も実施しました。これらの活動に際しては、講師の方だけでなく、高齢者クラブや婦人会の方など地元の方も参加していただき、地域民との交流もできました。さらに、山村の暮ら

しにふれることで、「現代の利便性と失われた豊かさ」「暮らしの価値観」といったことも感じてもらえたようです。

活動に際しては、子どもだけではなくその保護者にも参加を呼びかけたため、参加者は家族単位での申し込みとなりました。子ども達と体験を共有することで、昨今危惧されている「親子のつながり」も深めることができたのではないのでしょうか。

## 成果と課題

成果としては、大野をフィールドに幅広い自然体験活動を提供することができたこと、自然体験活動のみに始終しない体験活動を提供することができたことがあげられます。

また、鹿児島大学との提携から、演習林という自然豊かなフィールドが使える、大学教授から専門的な知識を学ぶことができたというのも本事業の大きな成果と言えるでしょう。

一方で、自然学校が地域活性化において果たすべき責務を考えたとき、本事業での地域民との交流は、まだまだ一部に留まっていると言えます。今後は地域民との交流と、それによる地域活性化を課題の一つとし、活動を展開していきたいと考えています。



分子模型作り

## 団体の概要

平成18年3月、鹿児島県垂水市立大野小中学校が閉校となりました。その跡地利用ということで掲げられたのが、地元大野地区、垂水市、鹿児島大学の連携により運営される「大野ESD自然学校」構想です。現在は正式な発足を目指し、「実行委員会」として試行的に活動を展開しているところです。



# 鎮守の森探検隊

—森が育てば魚も育つ？調べてみよう森と海との不思議な関係—

**募集対象** 小学生と保護者 一般／ **活動期間** 平成20年7月12日～平成21年1月24日

**実施団体名** 特定非営利活動法人 グラウンドワーク三島

**連絡先** 〒411-0855 静岡県三島市本町7-30

TEL:055-983-0136 FAX:055-983-0136

E-mail:mishimagw@ybb.ne.jp URL:http://www.gwmishima.jp

## 活動の概要

現在の子どもたちは、地域固有の水辺や里山、海辺などと親しむ機会が少なく、特に学校を離れての現場体験型の環境教育の場は極端に少ないといえる。そこで、地域内の特異な環境を熟知している専門家を講師とした、多様な野外学習のプログラムを実施することによって、子どもたちに自然の楽しさや、動植物の生命の不思議、人間と自然との共生関係の重要性、自然保護の市民の役割などを学ぶ機会を提供することを目的に実施した。

7年目を迎える今回の「鎮守の森探検隊」は、特に森と海との一体的な関係に焦点をあて、魚つき林での体験や海辺の松林の観察会を企画することによって、海の資源は森で創られる運命共同体としての地球環境上の循環の仕組みを理解してもらうことにした。

## 活動の内容

自然の多様性を体験できるように、三島市内とその周辺地域の様々なフィールドを学習の場を選定した。また、活動期間を夏・秋・冬に設定したことで、季節による自然の変化も体験できるよう工夫し、各回、異なるテーマを決め、全9回の自然観察プログラムを行った。



昆虫の観察会(桑寿園)



水生昆虫の観察会(源兵衛川)

海と森の関係を探るために、2箇所の特徴的な海岸林を選び実施した。「魚つき林って何？」をテーマとし、子どもたちは海岸沿いに広がる照葉樹林を歩きながら、そこに住む生物を観察し、豊かな森がたくさん魚が住みつく海を作るということを学ぶことができた。そして、松林ではマツボックリを手にしなが、防風林としての役割を持ち、かつてはエネルギー源として利用されていた森の役割を聞き、私たちの生活を守る大切な森の存在を実感した。

また、森と海とを結ぶ重要な川では、実際に川の中に入り夢中になって水生生物を探したり、パックテストを用いた水質検査を実施した。富士山湧水が流れ込む川の美しさを、生き物の豊富さと水質調査の結果から納得することができた。

その他にも、市街地にありながら多様な自然環境を保っている公園での自然観察会や、社寺林の人工的に手入れの行き届いた森とそこに住む生き物の観察、秋の里山でのネイチャーゲームの実施。その他、昆虫観察では、普段あまりじっくり見ることのない土壌生物の世界や、秋の鳴く虫・夜の観察会など、新鮮な驚きと感激を持って楽しむ

ことができた。

そして最終回は「鎮守の森探検隊わくわく発表会」とし、午前は冬鳥の観察会。午後はこれまでの観察会で印象に残った動植物に見立てたネイチャークラフトを作り、今年度の鎮守の森探検隊を振り返った。

## 成果と課題

毎回、専門家を講師に招き、現場において実際に自然の多様性を感じながら学ぶことは、より一層子どもたちの自然に対する好奇心をかき立て、満足度も高かった。幼少時代の、このような自然とのふれあいの機会は、自然環境への興味や関心を抱く、大きなきっかけとなり、このような経験をした子どもたちが、次代の自然を守る担い手として育っていくように、さらに多様な実践的な環境教育の場づくりに努力していきたいと考えている。



冬鳥の観察会(松毛川)

## 団体の概要

NPO法人グラウンドワーク三島では、地元・三島や富士山地域を中心とした地域環境改善事業や環境教育、環境コミュニティビジネス、研修、セミナーなど、40ヶ所以上の多彩なプロジェクトを展開し、ボランティア、市民、地元企業や行政とのパートナーシップのもとに活動している。



# 森のつどい自然学校

**募集対象** 保育園児～小3／ **活動期間** 平成20年5月10日～平成21年2月14日

**実施団体名** 特定非営利活動法人 なみあい育遊会  
**連絡先** 〒395-0501 長野県下伊那郡阿智村浪合17-288  
 TEL:0265-47-2853 FAX:0265-47-2851  
 E-mail:namiyou@mis.janis.or.jp URL:http://www.namiyou.com

## 活動の概要

長野県の豊かな自然を舞台に、四季折々にさまざまな年齢層の方々に適切な体験プログラムを提供しよう、という気持ちから、「森のつどい自然学校」は生まれました。

幼稚園・保育園・小学校低学年向けの活動が年間10回、小学校～中学校向けのやや高度な活動が年間2回、高校生以上大人向けの指導者養成会が年間2回となっています。また指導者養成会で学んだ方々が、小中学生向けのやや高度な活動のユースリーダーとして活躍できるようになっています。

また活動の拠点が山間過疎地であることから、そうした地域のこどもたちの参加が多いことも特徴のひとつで、「自然はあっても自然体験活動はない」という自然体験空白地域において自然体験活動を継続的におこなえる仕組みとして位置づいています。

## 活動の内容

### ◆企画にあたって工夫した点

幼稚園、保育園、小学校低学年向けの活動については、この活動がこの子たちにとって自然体験活動の玄関口になるという認識から、地元の自然、地元の植生、地元の文化、地元の指導者を大切に素材、場所、展開となるよう工夫しました。

小学生～中学生の活動については、一段ステップアップし、地元からやや離れたところを活動場所とし、指導者もより専門性の高い方に講師として参加していただけるようにしました。

高校生以上の活動では、指導者養成という性質を「具体性を持った指導」という観点から追及し、1カ月後に設定した小中学生向け活動の指導の下見・準備をするという切り口でプログラムを作成しています。



冬山キャンプのようす

### ◆具体的な活動について

2008年には以下のような活動を行いました。

#### ①幼稚園・保育園・小学校低学年向け 各回のテーマ

よもぎだんごづくり、やまあるき、川のいきものさがし、登山、いもほりと野外料理体験、パンづくり、ケーキづくりと冬の森あそび、雪の森散策とおもちつき、雪遊び

#### ②小中学生向け

ハケ岳登山キャンプ(4泊5日)、冬山キャンプ(1泊2日)

#### ③高校生以上

指導者養成講座(ハケ岳)  
(2泊3日×2回)



ハケ岳アドベンチャーキャンプにて



ちびっことたちのハイキングの様子

## 成果と課題

成果としては、各年齢層に応じた活動を展開することで、参加する子どもたちの意識に縦断的な関係性をつくることができ、継続的に参加者を確保することが可能であった点が挙げられます。年齢やライフステージに応じた体験活動を提供することで、経験の蓄積が成長と認識しやすい構造を生みだしました。また、子どもたちは、立場がかわることで今まで蓄積してきた経験の生かし方が違ってくることを認識すると同時に、最適化されたアウトプットの方法を体験的に学べたというも大きな成果です。

これらのことから、年齢に応じた自然体験活動を縦軸に意図的に配置することの効果を得ることができました。

今は、山間過疎地の子どもたちが自然とふれあい、自然を知り、さらに冒険を重ねて応用力を身につけ、指導者となっていくサイクルとして定着してほしいと願っています。

## 団体の概要

特定非営利活動法人 なみあい育遊会は、南信州阿智村の高原の地・浪合で山村留学事業をハイエンドとした自然体験活動をおこなっている団体です。今回紹介させていただいた「森のつどい自然学校」の他、地域サッカークラブ、学童クラブ、琴教室や、各大学の実習の受入れ、講師派遣などを行っています。

# 2008山村留学ネットワーク研修会

**募集対象** 山村留学指導員 地域住民 教職員 教育委員会職員／ **活動期間** 平成20年5月14日～15日、11月28～29日

**実施団体名** 特定非営利活動法人 全国山村留学協会  
**連絡先** 〒180-0006 東京都武蔵野市中町1-6-7 朝日生命ビル5階  
 TEL:0422-56-0595 FAX:0422-56-0351  
 E-mail:info@sanryukyo.net http://www.sanryukyo.net

## 活動の概要

山村留学は、小中学生が自然豊かな農山漁村に移り住み、地元小中学校に通いながら、様々な自然体験活動・集団生活等を体験する教育活動です。こうした活動は、子ども達の感性やコミュニケーション能力などを育むだけでなく、地域にとっても、他地域との交流や地域活性化、地域資源(人的物的)の発掘等の効果上げています。

今回の研修では、そうした山村留学事業に携わる、指導者・地域住民・学校関係者・行政担当者等が集まり、相互交流と実践活動発表、山村留学と政策との関わり、今後の課題等を話し合いながら、山村留学の更なる発展を目指しました。

### <第1回四国研修会>

第1回東京研修会では、山村留学を取り巻く政策の現状や事例発表、リスクマネジメントを中心とした研修を実施しました。特に平成20年度より始まった、文部科学省・総務省・農林水産省の三省連携による「子ども農山漁村交流プロジェクト」は山村留学の要素を多く含んだ取り組みでもあるため、行政担当官による企画説明等を実施しました。

リスクマネジメントでは、実施するにあたっての危機管理、活動における危険予測、万一の場合の保険知識等



四国会場地域代表者

について、専門家による講習を受けました。

### <第2回四国研修会>

四国研修会では、実際に山村留学を実施している現場に集まり、日々の子どもの指導や受入の悩み、募集PR方法、活動カリキュラムの企画立案、費用面などの運営方法等様々課題について、座談会形式の研修を実施しました。

特に少子化の中、留学生確保に苦慮する意見や、様々な課題を持った青少年にどのように対処したらいいかなどの意見が多く出されました。

また、運営については資金の確保等共通する悩みも出され、今後補助金等の活用や政策に反映していく方策などが熱心に議論されました。



東京会場事例発表

## 活動の内容

研修会を企画するにあたっては、「①事例発表及び政策等を中心とした研修、②現場に即した課題解決を目標とする研修」の2回を予定して研修を組み立て、運営面、実際の指導面双方に役立つ研修会となるように工夫しました。

### 「子ども農山漁村交流プロジェクトについて」

農林水産省農村政策課都市農業・地域交流室 課長補佐 杉原裕幸氏

「黒松内ぶなの森自然学校の取り組み」  
NPO法人ねおす 理事長 高木晴光氏

「浪合通年合宿センターの取り組み」  
浪合通年合宿センター  
副所長 吉田哲也氏

「事故事例に学ぶ山村留学のリスクマネジメント」  
(株)インターリスク総研  
課長代理本間基昭氏

「岩国市本郷山村留学センターの取り組み」  
本郷山村留学センター  
センター長 佐古三代治氏

「課題別分科会(課題提起を受けて)」  
参加者募集と交流、生活指導及び活動カリキュラム、地域への還元、補助金の活用、指導者の養成と処遇等

## 成果と課題

全国各地にある山村留学関係者が一同に集まり、他の事例を聞いたり、個々の課題を提起して議論したりすることで、共通の課題認識と今後の方向性の共有を行うことが出来ました。また相互に連携するためのネットワークの構築の一助にもなりました。

今後は更に参加者増を目指して研修を企画し、更なる共通認識の拡大を図ることが、山村留学全体の質の向上に繋がると考えています。



東京会場参加者

## 団体の概要

当協会は、山村留学を実施する21団体が集まり、山村留学事業の発展と相互交流を目的として、山村留学の普及啓発(ホームページの運営、電話による相談)や、年2回の研修会の実施、山村留学の全国実態調査等を行っています。



# 作って遊ぼう

## (スライム・ブーメラン・竹鉄砲・浮沈子・グライダー・プロペラ飛行機)

募集対象 小1～6の男女／ 活動期間 平成20年7月22日～8月28日

実施団体名 かがやく目  
連絡先 〒156-0051 東京都世田谷区宮坂2-15-20  
TEL:03-3429-4884 FAX:03-3429-4884  
E-mail:tanakay@star.ocn.ne.jp

### 活動の概要

地元の3小学校児童を対象に科学体験として「作って遊ぼう」を実施した。夏休みの学校水泳訓練の待ち時間に設定した。延15日間実施し、子ども410名、大人120名、合計530名の参加を得た。各回1時間半で、道具扱い、原理、遊び方、成果の認定などを行った。時間と安全面から材料はある程度加工済みから始めざるを得なかった。現在のスタッフはかがやく目の母体となった中学同窓会のメンバーで高齢者が多いがそれに限るつもりはない。



スライムにスタッフも大わらわ



竹鉄砲で削り方を習う

機ではゴム動力、推進力、飛行距離の認定などを念頭に置いた。

### 成果と課題

15回で410名の子どもの参加は平均30名に近くそれ自体が成果であるが、内容を見ると学年別にかなりバラツキがあり、総じて高学年の参加が少ない。一方スライムは人気があり平均60名を超えた。参加の子どもは熱心に工作し、遊ぶ時も嬉々としていた。飛行機など自分で作っ

たものが飛ぶので、自分が恰も操縦しているような感動を与えた。飛行距離の認定は子どもに出来栄を認識させ、次にはさらに良く作ろうという意欲を与えた。全体に子どももスタッフも満足感・達成感が残った。

今回は学校の協力で、参加募集、場所の確保、保護者の参加が得られたが、校庭や体育館の確保は他の団体も使用しているので非常に難しい。また、スタッフなどはさらに充実したい。

### 活動の内容

対象学年はテーマに応じて目安を付けているが、希望があれば他の学年も受け付けている。小学1、2年生向けのスライムは色の変化や手触り感覚、さらに性質の変化を、同じくブーメランは組立て方、色塗り、飛んで戻る面白さを狙っている。3、4年生対象の竹鉄砲は自然の材料、手作り、飛ばし方、空気力を習い、浮沈子では圧力の伝達、浮く力、上下回数記録を目指した。5、6年生対象ではまずグライダーで精密な組立て方、操縦の仕方、滞空時間、なぜ浮くかを指導し、プロペラ飛行



校庭でプロペラ機の飛ばし競争

### 団体の概要

今の子どもは何をしても経験の未熟さが目立つ。そこで「大人と子どもの交流」をモットーに自然観察会・作って遊ぼう・昔遊びを子どもに提供している。原理、道具の使い方、遊び方、ルール・エチケットなど、自分たちが身に付けたコツを伝え、子どもの目が輝き、思いが通じた大人の目も輝くようなやり方をしている。

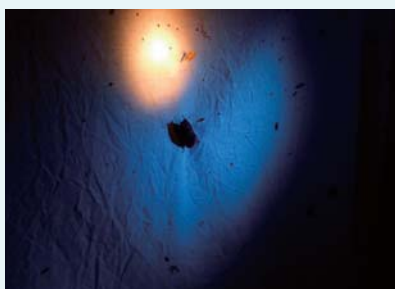
# 身近な科学を体験しよう「親子で夜間昆虫採集体験」

**募集対象** 小学生から大人まで／ **活動期間** 平成20年8月3日～8月4日

**実施団体名** 豊能科学工作教室  
**連絡先** 〒563-0104 大阪府豊能郡豊能町光風台2-5-9  
 TEL:072-738-7026  
 E-mail:zgggoods@ybb.ne.jp

## 活動の概要

講師から指導を受けて、夜間、親子で、郊外の雑木林に分け入り、日常見られない自然のなかのカブト虫やクワガタなど昆虫の生態を探りました。昆虫をいったん捕獲し、観察後放虫しました。お金を出せば世界の昆虫が買える今日、自然の中の生態を知る機会がありません。この様な時に、夜間活発な昆虫の昆虫採集は、子どもたちにとって貴重な体験となりました。夜間の為、大勢で山に入るのには安全確保の点からも問題があるので2日間に分けて活動しました。



ライトトラップ(ブラックライト)に集まったコクワガタムシ(♀)やガ・ハネアリ達

## 活動の内容

2日間とも夜間昆虫採集として、誘引採集、樹液採集、灯火採集をしました。講師の先生が、事前に誘引採集に使用するバナナ(発酵済)の仕掛けや樹液の出ている木のチェック、車のライトを当てる白布を張るなど準備を整えました。参加者が集合すると、まず講師から灯火採集の仕掛けについてのお話があり、周辺が完全に暗くなった後、誘引採集と樹液採集ポイントに移動しました。樹液の出ている樹木数本を巡回、同時にバナナト

ラップの仕掛け方についても説明があり、わずかではあります。樹液にはカブト虫、コクワガタ虫、ミヤマクワガタ虫が来ていました。山の中を約1時間観察し戻ってくると、1時間以上照射された白布にはたくさんの虫が集まっていた。ガ、カナブン、カミキリムシが多く、残念ながら子ども達が喜ぶカブト虫の飛来はありませんでしたが、様々な昆虫の生態や習性について、実際に観察しながら学習できたと思います。

## 成果と課題

本来、夜行性の昆虫が最も活動する時間帯が深夜から未明であることを考えると時間的な条件が厳しかったかもしれません。時間が長時間にわたり、かつ遅ければクワガタ虫、カブト虫と遭遇する機会も増えたでしょう。しかし、徒歩でも行ける身近な場所にカブト虫やクワガタ虫が集まってくるポイントが存在していることを子どもたちに知ってもらえたことが活動の成果



樹液をなめているカブトムシ(♂)発見!

だと思っています。今回参加した家族が再度採集に訪れることにより、親子の交流の機会が増えることを期待しています。昆虫採集を幼少時に体験しておくことは、子どもの情緒発育の過程において重要だと思います。自然界では様々な生き物が共生し、または敵対して生活していることを学習することにより、生命の尊さ、彼らの生活の場である自然を大切にすることが子どもたちに芽生えてくることでしょう。



講師の古市先生の話に聞き入る参加者

## 団体の概要

月に1回、子どもと大人が楽しく科学を体験することを目指しています。計画から実施までは、科学ボランティアの集団「夢LABO」とともに打ち合わせをしながら準備をします。最近では、教室の内容をボランティアの手でDVDに編集し、近隣の学校や図書館・科学館等に寄贈をしています。



# 天体教室 トウインクル・タイム2008「お月見の会」

**募集対象** 小1～6年生と家族／ **活動期間** 平成20年10月9日

**実施団体名** サイエンス ボックス

**連絡先** 〒102-0075 東京都千代田区三番町12番地 大妻女子大学家政学部児童学科

TEL:03-3212-8584 FAX:03-3216-1306

## 活動の概要

都心ではなかなか星が見られない、学校では夜に子どもたちを集めて星の観察ができないといったことから、まず身近な天体である「月」に注目して、日本の文化も伝えながら親子で星空観察を楽しむ事業を企画しました。お月見の会を実施した2008年10月9日は、後の月(旧暦9月13日)にあたり、この日は中秋の名月(旧暦8月15日)とともに、月を見る風習があります。「お月見」ってどんな行事?東京でも星や天体がホントに見えるの?といったことをテーマに、東京都心部で星空観察をしながらお月見を楽しみました。

## 活動の内容

小学校1年生～6年生と家族を対象に、「お月見の会」を実施いたしました。

参加者は、まず「お月見」の行事について、お月見の日付が毎年異なるのはなぜか、お月見の時に用意する「お月見グッズ」にはどんなものがあるのかといったお話を聞きました。また、実際に月を観るときのポイントとして、月の模様の見え方、実際に空に見える月の大きさ、双眼鏡や望遠鏡で見る月の表面についての説明を受けました。

その後で3グループに分かれて、団体構成員やティーチングアシスタント



5円玉を使って、月の大きさを測ってみよう!

の大学生の指導により観察を行ないました。各グループが順番に、全員が肉眼、双眼鏡、望遠鏡で月を観察しました。双眼鏡や望遠鏡の順番を待つグループは、東京の空でも見える星たちの紹介や、月だけではなく、夏の大三角が東京の空でも観察できることの紹介も受けました。望遠鏡を使って地球の兄弟星の木星の観察も行ない、木星には縞模様があること、木星の周りを回る衛星(ガリレオ衛星)も観察することができました。

さらに、月探査機「かぐや」の成果をビデオで紹介するコーナーを設置し、自分の目で見た月と、「かぐや」が見たクレーターの詳細など比べることができました。



教えてもらったら月を眺めてみよう!上手に使えたかな?

### A) 自分の目で見てみよう---

今晚の月の形はまんまるかな?

月の模様は何に見える?

星座早見板の使い方と、夏の大三角も探してみよう!

### B) 双眼鏡で見てみよう---

双眼鏡で月を見たら?

クレーターは見えるかな?

5円玉を使って月の大きさを測ってみよう

### C) 望遠鏡で見てみよう---

望遠鏡で月のクレーターや模様を見てみよう

木星や木星の月も見てみよう



双眼鏡で月のうさぎは見えるかな?

## 成果と課題

今年で3回目となった「お月見の会」は、初年度に「中秋の名月」、2年目に「かいき月食」をテーマに企画しましたが、残念ながら天候に恵まれず、3年目の「後の月」で初めて晴天の下での観察会となりました。親子での参加を呼びかけ、低学年の児童も保護者や兄弟と一緒に、それぞれに月を楽しむことができたと思います。どのように見たらよいかといったことに重点をおいて指導したことで、ウサギが見えた、月は五円玉の穴の中に入ってしまう大きさだということを実際に体験できたこと、都心でも星が見られるということを親子で確かめられたことが、印象に残ったようです。アンケートでは、家に帰っても、今日はどんな形の月が見えたとか星の話題が上がるようになったこと、子どもが興味を持って図鑑やニュースなどを見るようになったと、親も空を見上げるのが楽しくなったといった感想をいただきました。

課題としては、200名を超える参加者の場合、望遠鏡や双眼鏡の器材が十分ではなく、順番を待っている児童に対して、飽きさせない工夫が必要であると感じました。

## 団体の概要

千代田区立九段小学校PTAを中心に、千代田区内の大学や科学技術館サイエンス友の会との協力で、天体観察教室を実施している任意団体です。小学生を対象に、東京都心部での天体観察や、科学の楽しさと自分で問題を解決する能力を身につけることを目的とした放課後および週末の活動を展開しています。



# 第9回「こどものためのジオ・カーニバル」

**募集対象** 小中高校生 大学生 一般 学校関係者／ **活動期間** 平成20年11月1日～11月2日

**実施団体名** 21世紀の地学教育を考える大阪フォーラム 第9回こどものためのジオ・カーニバル企画委員会  
**連絡先** 〒590-0116 堺市南区若松台3丁2番2号 大阪府立泉北高等学校内(事務局)  
 TEL:072-297-1065 FAX:072-293-2376  
 URL: <http://geoca.org/>

## 活動の概要

小学生を中心とした子どもたちを対象に、地学分野(地球、地質、気象、天文、環境、防災など)に関する「観て、聴いて、触って、作って、…」を体験する企画(展示、実習、実験、製作)を展開しています。毎年、小学校・中学校・高校・大学の教員、博物館の学芸員、さらに大学生のグループなど多種多様な地学関係の専門家が、工夫を凝らした出展を計画、11月上旬の土曜日・日曜日に開催しています。

## 活動の内容

第9回として、大阪市立科学館を会場に2日間で開催しました。

今回の出展は、セミナーが工作室を会場に実験・実習を体験することを中心に約45分間で実施する「地震の発生と液状化現象」「化石のでき方・見つけ方」「太陽系オリジナルポスターを作ろう」「磁鉄鉱のスライムの作り方」「チョコレートの化石レプリカ作り」の5出展を実施。



「ようこそ不思議な石の世界へⅧ」で説明を聞きながら石を手にする子どもたち



「化石のでき方・見つけ方」でレプリカを使い化石を取り出している様子

ブースでは、研修室・多目的室を会場に展示、制作、体験を期間内に随時実施する「手作りアニメーション☆太陽の一生☆」「ピースで作ろう!星座図鑑」「つくろう雲の図鑑」「リアル トルネード」「水蒸気と湯気」「ハートの小石をつくろう」「日本の恐竜を紙で作ろう」「にじコップで遊ぼう」「いろいろな日時計を作ってみよう」「水蒸気と湯気、水蒸気と空気は、どう違うの?」「弁当パックで立体模型をつくろう」「ようこそ不思議な石の世界へⅧ」「ようこそ!!ちがくのせかいへⅣ」の13出展を展開。

2日間で、延べ4000名の参加がありました。

## 成果と課題

成果としては、本事業が9年目を終えて確実に定着し、会場では興味・関心もち「目をキラキラ」輝かせ参加する子どもたちを多く見かけること、子どもたちに地学分野の楽しさを伝える機会として企画内容も充実してきたこと、保護者を含め地学分野の興味・関心・理解を深め広げる機会になり、出展者の方の取り組みにも工夫や充実がみられ、地学教育の底辺の拡大に役立つ



「地震の発生と液状化現象」で実験の前に説明を聴く子どもたち

ていることなど、この企画を出発として様々な広がりがみられます。また、参加者には多くのリピーターが見られるようになりました。

課題としては、同じような出展がどうしても多くなりやすいこと、学生が主体の取り組みは新鮮で興味深い、内容の正確さなどで検討を加えなくてはならないことも増え、企画委員会として連携を深め充実した内容を目指すことがあげられます。また、参加者の加熱で、セミナーなど参加希望者を制限せざるを得ないという「うれしい悲鳴」も成果とともに課題といえると思います。

平成21年度は第10回として、これまでの出展から学校現場などで使ってもらえる企画を小冊子にまとめることも計画中。新しい取り組みを模索しながら今後の発展を考えています。



研修室の前の受付と、ジオ・カーニバルの横断幕

## 団体の概要

2001年に発足した企画委員会は、毎回、教員や学芸員などを中心に組織し、まず1ヶ月に1回ぐらいの会議で出展の検討などから始まり、夏頃から本番に向けた具体的な準備を進めています。そのなかで、地学教育の拡大・充実を課題に、子どもたちへのアプローチの方法なども話し合っています。

# 「はらっぱ☆くらぶ」 - 四季を感じる子ども体験 -

**募集対象** 幼児～中3 / **活動期間** 平成20年4月20日～平成21年2月15日

**実施団体名** 特定非営利活動法人 子どもNPOはらっぱ  
**連絡先** 〒599-0201 大阪府大阪市尾崎町1-2-13  
 TEL:072-471-2276 FAX:072-471-2276  
 E-mail:harappa@taupe.plala.or.jp URL:http://www12.plala.or.jp/harappa-home/

## 活動の概要

1年を通じてはらっぱ☆くらぶメンバーとして共に過ごすことで、校区、年齢の枠を超えた仲間作りを実現した。様々な活動を通して、子どもの主体性、創造性、協調性を育むとともに、中高生、青年の「あそびのボランティアスタッフ」とともに年長の子もたちにも徐々に役割を担ってもらい、子ども自身が楽しいと思える体験を積み重ね、信頼関係を築く喜びと、人を思いやる気持ちを学べる場となった。

## 活動の内容

### 【めざしたこと】

#### ◆継続性

おやこ劇場の時代から様々な体験活動を企画運営してきた当団体ですが、単発で終わる活動ーまた会えるかな?ーではなく、『そこに行けば会える、話せる、あそべる!』という居場所でありたいと願い、『つくる・つながる』ことの喜びを分かち合える仲間づくりを目指しました。

#### ◆大人の役割

この活動成功の鍵として大人のサポートとつながりが重要と考え、小2以下は保護者同伴での登録とし、自分の子どもだけでなく、子ども達をみんなで見守るという姿勢で年間17回のプログラムを行いました。

#### ◆中高生・青年スタッフ

活動の最大の特徴は園児から小学6年の31名のメンバーとは別に中学生から青年までの「あそびのスタッフ」を募集したことです。多忙な中高生、青年が連絡体制を作り、毎回の活動に調整しながら参加してくれました。毎回、始まりのワークショップや、溶け込めないでいる子のフォロー、

一緒になってあそぶなど、頼りになる存在でした。子ども達は彼らが大好きです。

### 【内容】

4月の発会式(手形の旗つくりと保護者説明会)に始まり、ダンボールあそび、アウトドアの活動やキャンプ、レクリエーション、クッキングなど様々な活動を行いました。夏休みが明けた頃には団結力も見え始め、子ども達が自発的に関わる姿勢が見え始めました。例えば、スタッフの準備の時間に子ども達が手伝ってくれたり(大人との信頼関係)、別々の遊びをしていた子ども達が徐々に大きな塊になって遊びだしたり(異年齢の思いやりや憧れ)、嬉しい場面に出会うことが増えていきました。

2月の閉会式では小6の子ども達へ中高青年からの寄せ書きが手渡され、はらっぱ☆くらぶメンバーからあそびのスタッフへつながりが見えてきました。



ダンボールあそび

### 『4月20日 ダンボールあそび&作品発表会と豚汁をつくって食べよう』

子ども40人 大人17人 参加  
 ダンボールのバスや動物、ダンボールハウスなど作品が出来、豚汁を食べた後、各作品の発表会を行いました。カッターでダンボールを切ることは思いのほか、力のいる作業のようでしたが、イメージして作りあげる楽しさ、仲間と協力し作った作品で遊び、みんなの作品を見て刺激を受け合い、最後は束ねて廃品回収車に積み込むまで全てを生

き生きとやり遂げた子ども達の笑顔が爽やかでした。



地引き網体験

### 『9月21日地引き網体験(地元漁師さんをお願いして行う)&お魚勉強会』

子ども44人 大人29人 参加  
 地引き網を2回した後、獲れた魚を手に取りながら漁師さんに説明してもらい、採った魚やたこをさしみや煮付け、潮汁、バーベキューなどに調理して食べました。



町たんけん(阪南マップで史跡めぐり)

## 成果と課題

園児から青年までの繋がりが見えてきたこと、中高生が頼れる存在に成長したことが大きな成果です。昨年度に引き続き2009年度も「はらっぱ☆くらぶ」を継続実施し、参加者も再募集しましたが、継続申込みが多数あり、参加者のニーズが高いことがうかがえます。昨年度は決められた内容が多く、子ども達から「もっと自由なあそびの時間」が欲しいという声が出てきました。今年度は子どもの声を大切に、信頼し、あそびの時間から生まれる主体性・創造性・協調性を育てていきたいと考えています。

## 団体の概要

「阪南岬おやこ劇場」として18年間の活動を経て、2003年よりNPO法人として活動を開始している。子ども達の豊かな感受性・創造性・自主性を育むことを目的とし、その成長を願って様々な取り組みを行っている。また、子どもに関わるすべての大人がみんなで、子どもの活動をサポートしている。



# ゆきあそびの城 ～笑顔広がる・心育む活動～

募集対象 小学生・児童幼児／ 活動期間 平成20年4月26日

実施団体名 ゆきあそびの城  
連絡先 〒779-2102 徳島県海部郡美波町港町字東1-4  
TEL:0884-78-2822

## 活動の概要

あそびの城活動は、

- ①子どもが安心して過ごせる場を提供する。
- ②子ども達の成長に繋がる時間を提供する。
- ③スポーツや文化活動・交流などさまざまな体験を提供する。
- ④大人が集まり、子ども達と触れ合う地域の居場所づくりをする。

というねらいのもと取り組み、平成20年度は年間15回に延べ304名の参加がありました。

## 活動の内容

### ・スポーツ・運動あそび

気楽に身近に楽しむことができるニュースポーツ(例:ティーボール、ユニホック、ピロポロ、ドッチビー、チャレンジ・ザ・ゲームなど)を活用しプログラムを行いました。

活動を通じて、楽しく体を動かす、夢中になる、協力することを育みました。



キンボール

### ・創作あそび・自然体験

クリスマスカードや紙飛行機をつくり、また初日の出ツアーも行いました。プログラムを通じて想像力を育む、自然に親しみ感じることを体験しました。



クラフト

### ・交流・ふれあい体験

老人ホーム慰問を行い、阿波踊りの披露や創作した寸劇などを行いました。慰問を通じて創り上げる喜び、思いやる心を学びました。



運動あそび

## 成果と課題

スポーツ・創作・自然・交流などの多種多様な体験を通じて、リーダー的存在ができ、主体的に取り組む、低学年を見守る、ゲームを工夫する、安全面に気をつけるなど、子どもたちが成長する姿が見えました。また、高齢者とのふれあいを通して、創り上げていく喜び、つながりの大切さを体感することができました。

大人にとっても、地域の大人の交流の場としての輪づくりもでき、またレクリエーション有資格者の活動の場にもなりました。現在、個性豊かな子どもたちの参加が増えてきており、その1人1人の個性を育み、見守る大人が必要になってきています。成長していく子どもたちとともに、大人として輝く環境づくり、つながりづくりをしていきたいと考えています。



老人会訪問



初日の出

## 団体の概要

「ゆきあそびの城」は、(財)日本レクリエーション協会が文部科学省「地域子ども教室推進事業」の委託を受け、平成16年から「子どもの居場所づくり」事業として取り組みを開始しました。子ども達の笑顔と遊びを創る大人の笑顔が集まり、人と人とのつながり・やりがい・生きがいを創られていく「地域の居場所」を目指して活動しています。

# いのちをまもれ!防災レンジャー全国企画

**募集対象** 小中学生 / **活動期間** 平成21年2月21日～3月1日

**実施団体名** NPO法人 フリンジシアタープロジェクト  
**連絡先** 〒606-8184 京都市左京区一乗寺払殿町29  
 TEL:075-724-6502 FAX:075-724-6502  
 E-mail:info@fringe-tp.net URL:http://www.fringe-tp.net/

## 活動の概要

「いのちをまもれ!防災レンジャー」は、2006年秋に、京都府宇治市立平盛小学校で実施しました(毎日新聞社主催ぼうさい甲子園にて「1・17ぼうさい希望賞」受賞)。2007年には子どもゆめ基金の助成によって神戸市で実施され、参加者や防災関係者から高い評価を得ました。

次は、いよいよ全国にその啓発効果を広めたいと考えています。2008年度は、その第一弾として、現地からの強い要請を受けた愛知県名古屋にて、実施しました。

ワークショップを通じて、防災にまつわる劇を創り、最終日には発表会にて多くの方にその劇を観ていただきました。作品中には、TOA株式会社のご協力を得て、災害時に流れる「本物」の警報音・非常放送の音を使用しています。

## 活動の内容

### ■ワークショップ

#### 《1回目》

まず、ゲーム性の強いワークを行い、参加者の緊張を解きます。

また、警報音・非常放送の音を聞き比べました。これらの音は作品の重要な題材となります。



ペアになり、お互いの動きを真似するゲームを行っています

#### 《2～3回目》

子ども達は複数のグループに分かれ、コミュニケーションティーチャー(指導のトレーニングを受けたプロの俳優)のナビゲートのもと、演劇創作を行いました。各グループが作品中で使う「音」を選び、それを取り込んだ防災にまつわる台本を共同作業で作っていきます。出来上がった台本を元に、セリフや動きの練習をして、防災意識を啓発する演劇作品を仕上げます。



全員が集まって、講師から説明を受けています

### ■発表会

子ども達がプロの俳優とともに、でき上がった防災劇を上演。プロのスタッフの音響・照明効果で、臨場感あふれる舞台空間が作られました。保護者や家族、地域の方、防災関係者などに多くの方にご覧いただきました。



表会のワンシーンです



表会の最後に全員集合、あいさつをしています

## 成果と課題

子どもならではの豊かな発想とプロの俳優の技術をもって創作された演劇作品は、観た観客にも、「大災害はいつ自分の身に降りかかってもおかしくない」という当事者意識を高め、防災について家庭で考えるきっかけになったようです。

今後はこのような取り組みが一過性のイベントとして終わるのではなく、きちんと継続されていくこと、そのために適した方法の研究、また各地でワークショップを担う人材を育成していくことが、課題だと考えています。

## 団体の概要

フリンジシアターと呼ばれる、小劇場(客席200席前後)での舞台芸術活動を支援しています。また、舞台芸術の持つポテンシャルに注目し、2003年より、演劇の手法を用いて環境問題・防災・防犯などを学ぶワークショップ「演劇で学ぼう!」を、全国各地で開催中。



## 『ふじみの国際わいわいクラブ』

募集対象 小1～6年生／ 活動期間 平成20年5月10日～21年2月22日

実施団体名 NPO法人 ふじみの国際交流センター  
 連絡先 〒354-0004 埼玉県ふじみ野市上福岡5-4-25  
 TEL:049-256-4290 FAX:049-256-4291  
 E-MAIL:fujiminowai@yahoo.co.jp

## 活動の概要

平成13年から子ども達の国際性、創造性、自主性を育み、異文化・異世代交流を図り、国籍や世代、性別捉われずに同じ地域に暮らす人間として触れ合うことを目的とし、中学生や高校生のジュニアリーダー達と大学生や社会人、主婦などの幅広い世代のスタッフが関わり、事業を企画・運営しています。子どもと楽しい時間と場を共有し、一緒に学び成長していける『子どもも大人も共に楽しく過ごしかわちあい居場所づくり』です。

## 活動の内容

『見つけよう!みんなに伝えたい日本!』

## ＜顔合わせレクリエーション＞

「どんな子がいるのかな」と緊張の面持ちの始りにお友達とスタッフの顔を知り、仲良くなる遊びを行い、一年間の活動をずっと共有し使用するシート作りを実施しました。

## ＜おにぎり&amp;豚汁づくり＞

野外調理を行う練習として、おにぎり&豚汁づくりをし、集団調理で子どもの仲間意識を高揚させ自主的に材料を決め分担して作り「自分で作ったからおいしい」など、いつも以上にたくさん食べていました。

## ＜昔の遊び体験＞

初めての遠足は班行動を重視し「旧坂東家住宅見沼くらしく館」昔遊び



キャンプ朝、体操の時間



小さな小川にどんな生き物がいるの?

場へ行き、予想以上に目を輝かせ竹馬や竹とんぼ、はねつき、囲碁将棋、おはじきなどで遊んでいました。30分足らずで竹馬に乗れる子どもの成長の早さに驚きました。

## ＜キャンプ＞

埼玉県内で2泊3日の自然体験キャンプを実施。低学年～高学年が班を構成しバンガローに宿泊しながら、野外炊飯やキャンプファイヤー、マスの観察や捕まえる体験を実施。航空自衛隊入間基地見学では隊員から災害や貧困で困っている子ども達がいるというお話を聞いたり、自然の中でのネイチャーゲーム、荒川の長瀬の川べりを散策する自然観察活動、醤油工場の見学も行いました。学校も年齢も国籍も違う参加者が集うキャンプは、行く前と後では子ども同士の関わり方や仲間意識が変わるなど、子ども達が最も成長した活動のひとつになりました。

## ＜メンコ作り運動会＞

写真や模造紙を活用し振り返りを行い、子どもが作る1年間の活動の記録としてオリジナルメンコを作成。「どうやって遊ぶの?」遊び方やルールに興味津々、1つの年末の季事としお正月の遊び(メンコ)では、日本のメンコは丸く、他の国のメンコに似た遊びお絵柄などを学びジュニアリーダーと会場の片隅で練習して遊ぶことに夢中になっていました。活動が終わる



調理体験、おにぎり&amp;豚汁

頃には、子どもたちから「えーもう終わり?」という声が上がっていました。

## ＜親子でわいわい＞

親子で一年間の振り返りを行うため、おにぎり&豚汁の調理体験を行い、みんなで活動写真を見ながら一年間を振り返りました。最後に、修了証書を一人ずつ手渡して終了しました。

## 成果と課題

高学年の子どもは低学年の子どもに対し、とても熱心に教えたり世話を焼き、低学年の子どもは一生懸命チャレンジする様子に子どもの成長がうかがえました。また、同じ地域や学校や学年ではなくても話したり遊んだりする中で仲間を広げ、偶然同じ班になった子どもに話しかけたことがきっかけで、1年の活動が終わる頃には大の仲良しとなった子どもが沢山いました。このような成果は満足の内くものであり、子ども居場所づくりとして継続して行う必要のある活動だと考えています。



野外での学習の時間

## 団体の概要

「ふじみの国際交流センター」は、地域に居住する外国籍の人たちの自立支援と市民・団体との交流・協力活動を推進し、豊かな多文化共生社会の実現を目指して活動するNPO(特定非営利活動法人)です。活動は、すべて日本人、外国人によるボランティアで支えられています。



# 「こどもが創るまち体験事業(指導者養成講座)」

**募集対象** 20歳以上のボランティア 教育者／ **活動期間** 平成20年12月7日～2月22日

**実施団体名** NPO法人ミニシティ・プラス  
**連絡先** 〒224-0029 横浜市都筑区南山田2-1-2-306  
 TEL:045-590-2394 FAX:045-590-2394  
 URL: <http://minicity-plus.jp/> BLOG: <http://miniyokoha.exblog.jp/>

## 活動の概要

ドイツで発祥した「ミニミュンヘン」を源流とし、現在、横浜を始め全国各地で開催されている「こどもがつくるまち」。職業体験やまちづくり、選挙体験、起業体験など多くの要素を含むイベントであり、教育的な要素もあることから多くの地域で試みが行われています。しかし、事業としての歴史が浅くどこも手探り状態で実施されているのが現状です。こどもの自主性や創造性を活かしながら、こどもたちと向き合い、こどもたちの力を引き出していく方法を参加者とともに、講座を通して学んでいきます。

## 活動の内容

『ボールが見えなくなるまで遊んだ日・・・はやく大人になりたいと思った自分。忘れていたこどもの頃の気持ちを思い出して、こどもたちと一緒に遊びながら創り出す“仮想のまち”を楽しみませんか?』というキャッチフレーズで、指導者養成を呼びかけました。

講座では、主に次のようなことが得られるように、講座やワークショップを組んでいきました。

- ・ドイツで発祥した「ミニミュンヘン」の持つ、こどもが創るまち事業への本質的な理解、こどもに伝え



2月22日の午後のシンポジウム

たいまちづくりの意義と必要性について再確認する。

- ・こどもの自主性を活かし、引き出すことのできるファシリテーター養成として、ワークショップをスムーズに運営する方法、こどもへのコーチングの方法、などを具体的に学ぶ。
- ・実際のこどもたちのまちづくり会議の中に入つての体験ワークショップ。

### 第1回講座 12月7日(日) 「こどもの創る仮想のまちミニヨコ実施報告と期待される効果」

実際にミニヨコハマシティの活動内容とその活動がもたらす効果について、実際に運営にかかわるミニヨコ市民のこどもたちにも参加してもらい、活動の中で大人とのかかわりについて、話してもらいました。その中でこどもたちが創るまち、の活動の本来の意義について学びました。

### 第2回講座 1月17日(土) 「こどもの理解のために」

講師:神谷明宏(聖徳大学児童学科准教授)  
 子どもの活動の経験豊かな神谷先生に、実際の例をあげながら、こどもと向き合うときの心構えなどについてお話を伺いました。さらに実際に6つのグループに分かれて、こどもって自分にとってどんな存在?こどもと向き合うとき自分ならどうするとよいと思うか?など整理して意見交換しました。

### 第3回講座 2月1日(日) 「こどもの自主性を引き出す ファシリテート力実践講座」

講師:丹下一(俳優・演出・コミュニケーショントレーナー)  
 はじめて会った人と、言葉を使わずに、相手がどのようなことを思っているのかを五感をフルに活かして感じ



子ども会議でファシリテートを体験

ることを目的に、体を実際に動かしながらのワークショップを行ないました。3人組みになって、1人が話したことを、聞き取り、もうひとりの人に整理して伝えるという練習などをしました。

### 第4回講座 2月22日(日) 「こどもとともに実践ワークショップ ～こども会議に参加しよう～」

講師:池田正則(NPO法人教育支援協会)  
 こどもたちのまちづくり会議と一緒にファシリテートを体験しました。まずは、子ども会議に参加する前に自分の目標を書き、最後に振り返りをしました。振り返りの中で、どんなことに戸惑ったか、うまくいったかなどを受講者で共有し、講師の池田さんにアドバイスをいただきました。

## 成果と課題

受講者の中には、すでに会場となれるインフラはある、こどもを支援する活動団体のメンバーである、しかしまだノウハウがない、自らがこのような活動を主催したいという方も多くいたので、今後のリーダーとして主催していただけるのでは?と期待しています。また、この講座のあと、平成21年8月に「こどものまちEXPO」を開催したのですが、多くの講座受講生に関心を持ってもらい、そのままスタッフになっていただいた方もいました。

## 団体の概要

私たちは「まちはそこに暮らす人が創り上げていく」という理念から、特に未来を担うこどもたちに、自由な発想で、楽しみながら、社会の中で自分らしく生きる力を身につける事業を行います。すべての人が社会の大切な一員であることを互いに認めあい、助け合えるようなまちづくりを目指します。

# 本耶馬溪通学合宿

**募集対象** 小4～6年生／ **活動期間** 平成20年6月10日～7月18日

**実施団体名** 本耶馬溪通学合宿実行委員会  
**連絡先** 〒871-0295 大分県中津市本耶馬溪町曾木1800番地  
 TEL:0979-52-2211 FAX:0979-52-3241

## 活動の概要

本町の通学合宿は、1999年にスタートしたが、文部科学省の委託事業の内容が変化すると共に補助金がなくなり、2008年より子どもゆめ基金の補助を受け継続している。子どもたちの体験活動の不足、家庭や社会の教育力の低下が指摘される中、この課題解決にむけて「本耶馬溪通学合宿実行委員会」が設立された。実行委員会・学校・地域住民の協力のもと、小学校5・6年生を対象に実施している。

1. たくましく豊かな心を育てる。
2. 家庭教育を見直す機会とする。
3. 子どもを地域で育む機運を高めるを3本柱に据え、通学合宿をより有意義なものにするため、実行委員会、地域のボランティア、児童が協働に努めてきた。

## 活動の内容

「やかた田舎の学校で町内にある小学校2校の児童31名が6泊7日の通学合宿に参加し集団生活を体験した。事前研修会で、取り組みの説明を受け、自己紹介、班づくり、役割分担、班それぞれの目標等を決めた。

**1日目**、入校式、その後持参した荷物を持って決められた部屋に移り行動を開始した。毎年このことだが荷物の量に驚く。3日分程度の着替え、洗面用具一式、期間中の勉強道具一式、米、野菜(家にある人)を入れると児童一



家族への絵手紙



夕食準備

人では持ち運びは不可能で、保護者の協力が必要となる。当然のことだが、朝の床上げ、洗面、朝の健康チェック、朝食準備、後かたづけ、部屋の掃除、登校準備、帰校後は手洗いとうがい、洗濯物たたみ、夕食準備、後かたづけ、風呂掃除、洗濯、洗濯物干し、夕食後学習(宿題・予習・日記)、夜の健康チェック、就寝準備、班長会議、班員への連絡は児童たち全員が参加し、毎日行う。

**2日目**のふるさと探訪は、自分たちの地域を知るということから文化財についての学習、地域の人とのふれあいから、軽スポーツを一緒に楽しむ。

**3日目**は家族への絵手紙を書き近況を伝える。

**4日目**は自由時間他校の児童とも仲間意識ができ各班で時間を過ごす。

**5日目**は地域の名物であるそば打ちを体験する。

**6日目**は、お世話になった施設へのお礼の意味でグラウンドの草取りをし、自分の荷物の整理をする。

**7日目**最終日、いよいよ閉校式、保護者を迎えての夕食会、子どもがいない間の家庭の様子、子どもに対する思いなど会話と笑いの中で終了した。

事後研修では、5年生児童の感想文の中に楽しかった、また来年も参加したいという声が多かった。スタッフやボランティアの声は、大半がよくやったと児童を称える言葉で通学合宿の



風呂掃除

成功を全員で喜びながら解散した。最後に実行委員会として最も気を使ったのは児童の健康管理面であった。

## 成果と課題

3年前までは、充実した合宿を願う実行委員会が多く活動を設定したり、ボランティアの方達も親切心で必要以上に手や口を出したりで児童の言動に支障をきたす場面があった。その反省を生かし活動の数を減らし、ボランティアの方は暖かい心で見守るようになり児童たちの自由時間が増える一方、児童たちの話し合いが活発化し班別活動にも連帯意識が高まった。

山村へき地では学童人口が急激に減っており現存する2つの小学校も統合するのではと地域の声もある。1学年児童数の急減のため5・6年の参加希望者だけでは合宿が組めず、低学年にも声をかけねばならないとの心配もある。そのため、通学合宿のあり方を根本的に見直す必要がある。



各班会議

## 団体の概要

本耶馬溪通学合宿実行委員会は1999年地域の子どものために体験活動を通してたくましく豊かな心を育てると共に思いやりの心を育てようと地域住民に呼びかけ実行委員会を設立し、「地域の子どもは地域で育てよう」を合い言葉に活動をしています。



# 子ども社会奉仕体験活動

**募集対象** 小学生・中学生／ **活動期間** 平成20年12月7日～平成21年3月15日

**実施団体名** 子ども未来を考える会  
**連絡先** 〒671-0252 兵庫県姫路市花田町加納原田159  
 TEL:079-253-5819 FAX:079-253-5819

## 活動の概要

都市化や核家族化あるいは少子化等近年、子どもを取り巻く環境は昔と比べ大きく変化してきている。そのような状況の中、以前にもまして、子どもたちの健全育成に向けた取り組みについては社会全体で考えていかなければならない現状にあると考える。

そのため、子どもたちの生きる力を育てていくには、地域全体で、奉仕活動や体験活動の場を提供し、地域の大人が関わっていくことも必要と考える。社会の一員であることを自覚させ、社会に役立つ喜びや奉仕することの大切さを身をもって体験し、学んでいくことが、子どもの生涯にわたって必要であるとの信念のもと、私たちは活動している。

## 活動の内容

月1回の実施を原則に計5回開催した。

### 1 認知症サポーター研修及び体験

参加者10名

子どもたちに「認知症」を理解していただくため、介護福祉施設をお借りして、兵庫県が積極的に力をいれている認知症サポーター研修を子どもたちにも学んでもらい、認知症のお年寄りにどう対応すればよいかを実際に体験してもらった。

### 2 老人福祉施設慰問

参加者12名

老人福祉施設を慰問し、廊下のふき掃除・車椅子の汚れ落とし・窓ガラスふきをした後、クリスマスの飾り付けを行った。

また、入所者のために、子どもがピアノを弾いてあげたり、一緒にク

リスマスソングを歌って楽しいひとときを過ごした。



ピカピカにしよう車イス

### 3 地域の人や老人福祉入所の方と一緒に餅つき体験交流

参加者4名

地元の方の協力を得て、みんなで一緒に餅つきを行い、できたお餅を老人福祉施設に入所している方や近隣の一人暮らしの方に持っていった。



「餅つき体験」うまくいくかなベツタンコ!

### 4 お菓子づくりと慰問

参加者9名

自分たちでデザインしたお菓子(クッキー)を焼き、併せて、お年寄りひとりひとりにメッセージはがきを作成し、近隣の一人暮らしのお年寄りの方々に慰問し手渡した。

### 5 老人福祉施設慰問・施設内清掃

参加者12名

老人福祉施設を慰問し、施設内を利用者と共に全員で清掃した。



おいしいクッキー焼けたかな

## 成果と課題

手紙を読んでくれたひとり暮らしのお年寄りの方たちが、本当に喜び感謝してくださった姿に、子どもたちは「こんなことでありがとうっていわれた」と張り切っています。感謝の気持ちがお互いの間に生まれたようです。

とても小さなことではありますが、大きな成果につながっていくと確信しました。

子どもたちの参加は予定していた人数より少なかったのですが、それだけ地域の方々と濃厚に接することができました。

課題としては、子どもたちが奉仕活動を通じて何ができるのか、何がしたいのかということ、自分たちで考え実行できるよう、地域の方々とともにどのような環境を作っていくか考えていかなければと思います。



老人施設の利用者さんとの交流

## 団体の概要

平成13年度に地域の子ども会の役員をしていた者が、何か社会に貢献できるものはないかということで平成14年4月に組織を結成した。地域の老人ホームの催しに毎年参加し、バザー等のお手伝いを行っている。今後も地域の方の生きがいづくりにいろいろ貢献したく、活動を行っている。

# 夏休み職場体験活動

**募集対象** 小3～中3 / **活動期間** 平成20年8月23日～8月24日

**実施団体名** 八幡野地区青少年育成会議

**連絡先** 〒413-0232 静岡県伊東市八幡野1189-172 八幡野コミセン内

TEL:0557-51-1177 FAX:0557-51-1177

E-mail:kb\_jzut@shore.ocn.ne.jp URL:http://kbizut.web.fc2.com/8ikusei/ikusei01.html

## 活動の概要

日々当たり前になっている事が実は多くの人たちの支えから出来ている事を二つの職場から学ぶ活動を計画しました。

一つは私達の地域に古くからある漁業、他は近代的組織力とシステムを必要とする鉄道会社です。

職人技と近代システムと言う対照的な職場を体験し、ここから発見し、考え、ひらめきを得たり、他への感謝や思いやりの心を深める事が狙いです。特に学齢が高い子供のこの気付きが大切なきっかけになる事を期待しました。

## 活動の内容

地域の小中学生を対象に広く募集し、当育成会の指導委員全員参加で実施する大規模な活動です。

参加者は学齢を考慮した数人ずつの班に分かれ班長を中心とした班単位で活動します。

プログラムは大きく分け4つの部分で進行します。

1つ目は、漁業を体験する活動です。オリエンテーションの後、集合場所から徒歩20分ほどの八幡野港に移動し漁師さんのお話の後、救命胴衣をつけ乗船し釣りを体験する最もダイナミックな活動です。船酔いも経験として心に刻まれ、人生最大の



ベテラン漁師さんのお話を聞く

記憶と言っても過言ではありません。班毎乗船なので待機組は漁協の許可を頂き、浜でサザエなどを取って待ちます。

2つ目は漁の獲物などを材料とし、浜でバーベキューを行います。これには家族も参加できるので活動中で最も楽しい時間です。

3つ目はキャンプファイヤーと星座観察です。今年は雨天のため室内で「伊豆半島の地形」の話と、「宇宙と星座」の話に切り替えました。難しい話を低学年も信じられないほど静かに聴いていました。

この後室内にテントを張り就寝です。ガヤガヤ、バタバタでしたが楽しんでくれたようでした。

最後は翌午前の「伊豆高原電車区」工場の現場体験です。

いつも乗る電車が、洗ってもらったり悪いところが無いかを見もらったりと、とても大切に扱われている様子を、触ったり、電車の下に入ったりして体験しました。目が輝く子どもたちの様子が印象的でした。



八幡野港近くの漁場での釣り

## 成果と課題

初めにも述べたとおり、この活動のねらいは子どもたちに、人間に限らず他者へ思いやりをもって接することの大切さに気付いて欲しいと言う所にあります。今年の活動で取り上げた、漁業も鉄道会社も多くの



参加者の想像を超えた大漁でした

大人たちが真剣にかつ利用する人を考えていることに目を向けて欲しいのです。この点は活動中の子どもたちのまなざしが本当に真剣であつた事が何よりの成果と言えます。

一方、問題が無い訳ではありません。一つは低学年の夜間不安です。宿泊を伴う事で保護者と完全に離れ、特に夜間は初めての経験だと体調不良を訴える子が出てきます。

今年は56人が参加者しましたが、直前の参加取り止め2名、夜間に帰宅した者2名でした(内1名は翌朝再参加)。

2つ目は、主催者の大人の問題です。何人かの教員がいるとは言え大半は通常の職業を持って指導員をやってくれるボランティアです。

子どもの指導経験が少ない事や海の活動の水難事故対策は大きな負担です。しかし子どもたちは強く望んでいますから安全な「お遊び」では納得しません。この兼ね合いが大きな課題といえます。次年度はこの課題を生かした活動を計画したいと考えています。



電車の点検作業の説明を聞きませ

## 団体の概要

八幡野地区青少年育成会議は伊東市南部の八幡野(伊豆高原)で活動しています。20年度の主な活動と子どもの参加状況を紹介します。7月:親子納涼野の集い(約500名) 8月:夏休み職場体験(ゆめ基金助成活動)56名 10月:稲刈り 11月:やんもの里文化祭協賛 12月:お飾りづくり(120名) 21年02月:夜警体験(雨天中止) 4月:竹の子刈り(約90名) 5月:お米づくり(田植え34名) 他に花いっぱい運動や神社清掃を随時行っています。



# “心を開き、共感性を育む表現活動”事業

**募集対象** 小3～中3 / **活動期間** 平成20年8月23日～8月24日

**実施団体名** 大牟田子ども劇場  
**連絡先** 〒837-0927 福岡県大牟田市中白川町2丁目48  
 TEL:0944-54-7799 FAX:0944-54-7799  
 E-mail:omuta-kodomo@owa.bbq.jp

## 活動の概要

社会力の育ちが危ぶまれているといわれる現在の子どもたちが、芸術的な文化活動を行う。身体を動かし、集団で創り合うことで、内面活動を活発化させ、コミュニケーション力や共感性を育むことを目的として行いました。そのために、各活動には子どもたちの状況を把握し、かつ芸術的な専門性を持った指導者をお願いしました。



荒馬踊りでウォーミングアップ

## 活動の内容

芸能体験ひろば

『まつりが伝えてくれるもの』

6月8日(日) 大牟田市民第2体育館

10:00～12:00(低学年対象)

14:00～16:00(高学年・中学生対象)

「荒馬踊り」「元気いちばん太鼓」を民族歌舞団「荒馬座」より2名の指導者で行いました。

全身を使って、踊ったり、太鼓を叩いたりしていくことで、参加した子どもたちは、徐々に心身から心まで開放していききました。

太鼓は一本の木をくり貫いて、動物の革をはりつくられ、それは植物や動物の生命をいただいて出来ていること。まつりには、穰り豊かなふるさとや家族の幸せ、世の平安への願いが込められ、今に引き継がれていることなど。このような話を指導の合間にいただいたことで、自然とともに生きてきた先人たちの知恵やいのちへの愛情、エネルギーを感じとる事ができました。



みんな、楽しく、そして真剣

『子どもたちのためのシアター遊び』～表現あそびコミュニケーションワークショップ～  
 8月2日(土) 大牟田文化会館音楽室  
 10:00～15:00

二人の講師(劇団うりんこ所属の役者)の指導で行いました。

午前中はいろんな表現遊び。初めて参加した子どもたちも多く、始まる前はポツンポツンと部屋のあちこちにいた子どもたちの距離がぐんぐん近くなっていくのが、とてもよくわかりました。

午後からはグループに分かれて『げきづくり』。子どもたちは、誰一人外れることなく、中学生がリーダーになり、劇を作っていました。自分たちで作った劇を発表するときの子どもたちの楽しそうな顔。響きあい、共感しあい、更に表現していく中で、子どもたちは楽しく、人への信頼を育み、豊かな自信をつけていったと思います。



私たちが作った「劇」だよ

『わらべうたあそび・布あそび』

9月7日(日)大牟田文化会館多目的ホール

10:30～12:00

麻生学園教員養成所教授古賀由美子先生の指導で行いました。

乳幼児のための舞台『ぴーかぶー』(風

の子九州)のあそび唄・動き・表現の指導や乳幼児の親子対象・サポーター養成のワークショップなど、乳幼児活動を多彩にしていらっしゃる先生です。

「いないいないいない おやおや?」先生の温かく柔らかな歌声は心地よく、自然と身も心もほぐれ、スキンシップをしながらコミュニケーションができるわらべうたや布あそびをたくさんしました。親子でゆったりとした時間のなかで育っていく心地よさや楽しさが、子どもの心に成長発達の土台になる“安心感や共感性”を育む本当にかげがいのないものだと感じたワークショップでした。



子どもたちの安心した“笑顔”

## 成果と課題

活動に応じた指導者に依頼できたのがより大きな成果につながりました。子どもたちの心を開き、共感性を育むためには、参加者の自発的な内面活動をどう外からの働きかけで起こしていくかが大事なので、指導者の専門性が特に大切だとあらためて感じています。

条件を作り機会さえあれば、子どもたちは、自分を表現でき、表現することで、更に心身が開放されていきます。それを子どもたちが個人で行うのではなく集団のなかで行うことで、色々な価値観との出会いが生まれ、新しい発見があり、刺激を受けたり、自分のなかに取り入れたり新たな価値観を築いていく。そのことが、豊かな心の成長につながっていくのだと参加者の変化で感じる事ができました。

## 団体の概要

大牟田子ども劇場は、1975年3月発足より子どもたちに優れた生の舞台との出会いと子どもたちの多様な活動を通して、友情と自主性、創造性を育み、子ども達の健全な成長を促し、支えることを目的として活動しています。平成20年度の主な活動として、舞台鑑賞会(6作品)・高学年子ども団キャンプ・ピースロード・人形劇ワークショップ・乳幼児活動・子ども夢基金助成事業“心を開き、共感性を育む表現活動”事業。



# 平成20年度 子どもの読書推進ボランティア交流会

**募集対象** 子ども読書推進ボランティア / **活動期間** 平成20年11月22日

**実施団体名** 福岡「子どもの読書」関連団体連絡協議会  
**連絡先** 〒812-8651 福岡県福岡市東区箱崎1丁目41-12 福岡県立図書館内  
TEL:092-641-1239 FAX:092-641-1192

## 活動の概要

現在、国を挙げて、子どもの読書推進活動の取り組みが行われています。当協議会では、平成12年度以降、子どもの読書活動の振興のための研修会、講演会等を開催し、県内の子どもの読書に関わるボランティアの交流会を行っています。

平成20年度は、県内を7つの地区に分けそれぞれの地域に合った交流会を行いました。そのうち2地区では、外部より講師を招いて子どもと読書に関わる講演会を開催し、研修を深めました。

## 活動の内容

### 1.『平成20年度 子どもの読書推進ボランティア交流会&講演会 北九州・京築地区』

長年、子ども文庫活動をされている方を講師に招き、子どもたちに本を手渡すこと、子どもたちとともにおはなしを楽しむことについての講演会を開催しました。交流会では、読み聞かせと、ストーリーテリングの模擬おはなし会を、2つの分科会に分けて行いました。その後それぞれの分科会で情報交換を行い、日ごろからの疑問や問題点についてを、講師の御意見を伺いながら話し合うことができました。



交流会の様子



模擬おはなし会の様子

### 2.『平成20年度 子どもの読書推進ボランティア交流会&講演会 福岡西地区』

写真家であり絵本作家でもある方を講師に招き、日本の自然と子どもたちについての講演会を行いました。交流会では講演会の内容に関連した、自然科学の本を入れたおはなし会、科学遊び、ブックトークの3つの分科会を行いました。それぞれ模擬おはなし会や発表を行い、その後意見交換を行いました。

### 3.『平成20年度 子どもの読書推進ボランティア交流会』

福岡南地区、福岡東地区、北筑後地区、南筑後地区、筑豊地区、以上5地区では、それぞれの地域で内容を考え、交流会を行いました。

福岡南地区では、「昔話絵本の選び方と届け方」、「支援学級でのおはなし会」、「読書ボランティアのあり方」の、3つのテーマで分科会を行いました。各分科会とも疑問点、課題について話し合いました。

福岡東地区では、「子どもの心をひきつける絵本」について研修を行いました。その後、「朝の読書の時間について」、「授業時間について」の2つのテーマで分科会を行いました。分科会ではおはなし会とブック

トークを行ったのち、意見交換会をもちました。

北筑後地区では、「朝の読書のおはなし会」、「小学校の昼休みのおはなし会」、「公民館などでの集会施設のおはなし会」の3つのテーマで分科会を行いました。それぞれ模擬おはなし会も行い、意見交換を行いました。

南筑後地区では、小学校低学年向けと高学年向けに分けて、子どもたち向けのおはなし会も行いました。その後の交流会では、「おはなし会のプログラムの立て方について」、「ボランティア活動について」をテーマに話し合いをしました。

筑豊地区では、「みんなで絵本を楽しむ会」として、参加者が自分のお勤めの絵本を持ち寄り、それぞれ発表しました。その後、発表会を踏まえて意見交換を行いました。

## 成果と課題

県内各地区で交流会を行うようになって3年になります。子どもの読書ボランティアの交流が深まり、地域の会員が実行委員として参加することで、地域の実情に合った交流会を企画することができるようになってきました。今後どう継続していくかが課題です。

## 団体の概要

平成12年、県内の子どもの読書に関わる諸団体の交流を通じて、「子どもの読書」運動の普及及び振興を目的に設立されました。情報交換のための会報発行や会員交流のためのイベントの開催などを行い、県内の子どもの読書活動に関わるボランティアグループのネットワーク拡大と、全県的な運動の広がりを目指しています。

# “おはなしナビゲーター”養成講座 ひろがれ!おはなしポケット

募集対象 一般成人／ 活動期間 平成20年9月5日～12月14日

実施団体名 特定非営利活動法人 名古屋おやこセンター  
連絡先 〒460-0002 名古屋市中区丸の内1丁目14-12グランビル2B  
TEL:052-205-8881 FAX:052-205-8882  
E-mail:n-oyako@crocus.ocn.ne.jp

## 活動の概要

子どもの本離れが進んでいると言われています。実際、ゲームやマンガなど視覚にたよったものに興味関心がいき、想像することが苦手になった子どもが多くなりました。子どもたちに本の楽しさを伝えることのできる大人を多く養成するという趣旨で2007年度この企画を実施しました。

「よみきかせ」の活動をしたいと思う大人、さらに実際にしている大人もたくさんいることがわかりました。多くの人が、きちんとした知識や技術を学び、向上のための努力をしたいと考えていることを知り、2007年度の講座の成果を踏まえて、同名の講座を2008年度開講いたしました。さらに2009年度も開講を予定しています。

## 活動の内容

### \* 2007年度の講座の紹介

- ①絵本について学ぶ(講師:図書館司書)
- ②表現について(講師:劇団代表)
- ③紙芝居(講師:紙芝居パフォーマー)
- ④おはなし会小道具づくり(講師:人形劇団員)
- ⑤実践体験
- ⑥おはなし会の楽しさを学ぶ(講師:藤田浩子氏)



パパ's絵本プロジェクトの実演風景



プログラムについての学習風景

### \* 2008年度の講座の紹介

向上のための講座を求めている声が多くあったため、基礎編とステップアップ編に分けて講座を開講しました。初心者と経験者を区別するのではなく、経験者にも新たな気持ちで学べる内容に配慮しました。

- ①絵本について学ぶ(講師:児童書専門書店店主)
  - ②わらべうた(講師:コダーイ研究所講師)
  - ③科学の本について知る(講師:よみきかせボランティア代表)
  - ④プログラムの組み方Ⅰ(講師:よみきかせボランティア経験者)
  - ⑤おはなし会小道具づくり(講師:スタッフ)
  - ⑥プログラムの組み方Ⅱ(実践発表)
  - ⑦実践体験
  - ⑧わくわくすることを体験する(講師:パパ's絵本プロジェクト)
- ①②③⑤⑦⑧・・・基礎編  
①②③④⑥⑧・・・ステップアップ編
- 同じ「絵本について学ぶ」という内容でも、図書館司書と児童専門書店店主では、本の見方や選び方が変わるのは当然で、両者の話しを聞くことで、絵本に対して多様な見方・選び方があることを、感じてもらいました。これには、子どもを一方的に見ない大人でありたいという思いが含まれています。さらに、読み手としての知識や技術の向上

を求めるだけでなく、聞き手側の気持ちも体験できるように、楽しめる講座を最終日に企画しました。実際に「よみきかせ」を経験してもらうため、子育て支援の場で「おはなし会」を開いてもらいました。

## 成果と課題

「よみきかせ」と一言でいってもそこで展開される内容は絵本をよむことから始まり、紙芝居・パネルシアター・ペープサート・人形劇・手袋人形・手遊び・わらべうた・ブックトーク・語りといろいろあります。すべて知っていなければ「おはなし会」が開けないわけではありませんが、知っていることで、より内容の充実した「おはなし会」が開けますし、自信をもって子どもたちに本を届けることができます。「おはなしナビゲーター」として学んでいくことはたくさんあります。

絵本もどんどん出版されている今、本当に子どもたちに届けたい絵本を見つける力も必要です。「よみきかせ」の場が多様化している今、技術や知識だけでなく意識について学んでいくことも大切です。大切なことはパフォーマンスやお楽しみ会の開き方ではなく、「子どもに本を届ける」ことを第一目的とした講座でなければならないと考えています。



科学の本についての学習風景

## 団体の概要

0歳から18歳までの子どもの育ちをさまざまな体験や文化活動を通して支援しています。子育て中の親の居場所やパパ・ママのための電話相談をしています。長期入院児の心を癒す文化活動や子育て支援者人材育成のための養成講座もしています。



# 子どもの本とおはなし講座

**募集対象** 子どもを育てている親／ **活動期間** 平成20年5月15日～平成21年3月7日

**実施団体名** 特定非営利活動法人子育て応援・ペンギンくらぶ  
**連絡先** 〒310-0011 水戸市三の丸1-5-38交流サロニーいばらき内  
 TEL:029-246-9510 FAX:029-246-9510  
 E-mail:penguin\_pepe\_pupu@yahoo.co.jp URL:http://www.ne.jp/asahi/mi/to/penguin/

## 活動の概要

子どもの読書の振興を図るためには、子どもにとって最も身近な存在である親が、子どもの読書について理解と認識を深めることが大切です。

子育て中に読書の大切さを聞いても、どんな本を選んだらいいのか分からない、という親は少なくありません。このため、主に親を対象とし、講座の中で、言葉の力の基礎となる昔話やわらべうたをはじめとした多くの本を紹介しました。また、語りやうたを通して子どもと言葉による心の交流をもつことができるよう援助するとともに、家庭における読み聞かせを推進しました。

## 活動の内容

人々は昔話を通して、人として生きる知恵・知識・生き方・在り方を学び、それらを暮らしに活かしてきました。また、わらべうたを通して、楽しみながら言葉を覚え、歌いながら遊ぶことの喜びを感じてきました。さまざまな本を紹介しながら、世代を超えて文化を伝承し、子どもの心を育ててきた、昔話・わらべうたの魅力や背景に関する講座を開催しました。



パパのための絵本講座



わらべうたと絵本講座

さらに、子どもの本についてまだよく分からない母親にも、今後は子どもの読書に関心を持っていたらこうと、子どもの本の初心者を対象とした講座を開催しました。ふだんはなかなか子育ての時間を取れない忙しい父親にも、今後は家庭で読み聞かせを実践していただくこと、父親も対象とした講座も開催しました。

最後に集大成として、絵本作家の西巻茅子さんをお招きし、定員300人の講演会を開催しました。

これらの講座や講演会は、小さい子どもをもつ親も参加しやすいよう、いずれも保育付きとしました。

- ①「子どもと昔話」講座  
(県内2箇所・各会場3回)  
講師: 田中久子さん、坂部豪さん
- ②「わらべうたと絵本」講座  
(県内2箇所・各会場3回)  
講師: 石川道子さん、坂部豪さん
- ③「新米ママのための絵本講座」  
(県内2箇所・各会場2回)  
講師: 今井典子さん
- ④「パパのための絵本講座」(1回)  
講師: 坂部豪さん
- ⑤西巻茅子さん講演会  
「こどもー絵本ーわたし」(1回)  
講師: 西巻茅子さん



新米ママのための絵本講座

## 成果と課題

子どもゆめ基金の助成をはじめ、県や各市の教育委員会、学校や図書館、公共施設等にも、後援や広報・施設使用などにあたり、ご支援・ご協力をいただきました。おかげさまで、講座を通して親が子どもに本を選び与える力をつけ、家庭において読み聞かせを実践し、子どもがより一層本に親しみをもてる環境作りのために、一定の成果を上げることができたと思っています。

今年度にとどまることなく、子どもの読書の推進のための活動を継続していくことが、今後の課題です。「子どもの本とおはなし講座」の成果を生かし、プログラムを一層充実させて、より多くの子どもたちが読書に親しむことができるよう、微力ながら活動を進めてまいりたいと思います。



西巻茅子さん講演会「こどもー絵本ーわたし」

## 団体の概要

子育て中も子どもと一緒にさまざまなことにチャレンジできる、子育てが楽しくなる環境を目指して、2000年に発足。主な活動は、子育て環境の調査と提案、保育付き講座の開催、子育て情報の発信など。特に、家庭における子どもの読書の振興のため、主に親を対象に、子どもの本に関する講座や講演会を開催しています。



# 一人ひとりの子どもたちに楽しい本の世界を届ける “ルピナスさんの会”

募集対象 3歳から大人／ 活動期間 平成20年7月2日～平成21年2月26日

実施団体名 ルピナスさんの会  
連絡先 〒527-0135 滋賀県東近江市横溝町1967 東近江市立湖東図書館内  
TEL:0749-45-2300 FAX:0749-45-2300

## 活動の概要

子どもたちに「楽しいよみかたり・おはなしの世界」を届けたい、また、ほんものに触れることにより、五感をみがき、広い世界を子どもと子どもにかかわる大人が共有することを願って

- ①子ども対象の活動
  - ②大人対象の活動(指導者養成)
  - ③フォーラム(読書普及活動)
- の3つの活動を計画し、市内各地域で行いました。

## 活動の内容

### 活動①子ども対象

「子どもたちに楽しいよみかたり・おはなしの世界を届ける」

学校・園を会場にして放課後に、ストーリーテリング(土屋知子氏)、子どもと本・ことばをつなぐ講演会(今森光彦氏、アーサー・ピナード氏、熊丸みつ子氏、今関信子氏)、五感体験ワークショップ(中山圭子氏)、紙芝居や絵本ライブ(東野健一氏、長谷川義史氏)の実践を行いました。

### 活動②大人対象

「子どもたちと本の世界を結ぶ」

子どもたちへのおはなしの届け手である、保護者や読み語りグルー



えほんのひろばの様子



おはなしの小道具づくりの様子

プの方々に日々の実践の力となるような講座を計画。ダンボール書架づくりとえほんのひろば(加藤啓子氏、山中純治氏)、言葉の持つ力を実感するための講演会(尾木直樹氏)、わらべうた指導者養成講座(岡崎義子氏)、紙芝居の実践と演じ方指導(野間成之氏)などの講座を行いました。

### 活動③フォーラム

「子どもの本の力を考えるフォーラム」

『さあ、遊ぼう!大人も子どももみんなよつといで』をキャッチフレーズに、午前中は、あべ弘士氏の講演会「ぼくと絵本と動物と」、午後はワークショップを開催。ワークショップでは、あべ弘士氏(動物の絵をかこう)、小野操子氏(科学あそびを楽しもう)、永崎みさと氏(お話が楽しくなる小道具づくり)、為公史氏(お茶とおはなしの世界で五感を楽しむ)を講師に、4つの部屋を用意しました。また、おはなしボランティアによる「えほんのひろば」も開催し、活動で作ったダンボール書架を並べ表紙見せ絵本でいっぱい部屋をつくり、親子で絵本を楽しんでもらえる場を作りました。

## 成果と課題

地域(まちづくり協議会)や学校、PTAも巻き込んで、協働で活動することができました。また、フォーラムでは、普段それぞれの地域で活動するボランティアサークルのメンバーが集まって、知恵を出し合い協力し、大変手ごたえのある活動を行うことができました。

市町合併し広域な自治体となった本市ですが、地域のすべての子どもたちに、たのしいおはなしの世界を体験してほしいという願いを持ち、市内各地域で活動を行いました。どの地域でも、瞳を輝かせ「また来てや!」と講師に手をふる子どもたちの姿や、充実した笑顔を見ることは、会員だけでなく、保護者やまわりの大人の心にも深く残る体験となったと思います。

活動をとおして、読書することで獲得した豊かな情操や資質・能力は、子どもたちが生涯にわたって主体的に生きていくための力となると確信しました。

今後はさらに、子どもたちの読書環境整備を進めるために、新たな会員や仲間を増やし、交流の場として、またスキルアップの場として、地域・学校・PTAとのネットワークを築きながら活動していきたいと思えます。



ワークショップを交えてのあべ弘士さん講演会

## 団体の概要

東近江市内各地域で活動している7つのおはなし、紙芝居ボランティアサークルの連合組織。園や学校、老人福祉施設や児童施設など、様々な場でよみかたりやおはなしの世界を提供している。

# おおぞらの下のおはなし会

**募集対象** 小学生／ **活動期間** 平成20年6月1日～平成21年3月22日

**実施団体名** おはなしのへや もも  
**連絡先** 〒406-0013 山梨県笛吹市春日居町寺本152  
 TEL:0553-26-3065 FAX:0553-26-3065

## 活動の概要

年4回、小学生を対象に、四季に合わせた自然観察を盛り込んだ野外での読み聞かせ会を開催した。観察後に読み聞かせと本の紹介、読書タイムの時間をとったが、観察の中でも講師に図鑑や科学絵本を使用してもらった。

自然豊かな近隣の神社を会場に使用することで、「今、目の前で見たものが本に載っている、あるいは本で見たものが目の前にある」という本と体験が結びつく活動を行った。

## 活動の内容

概要の通り、「自然観察→関連した本の読み聞かせ・紹介→読書タイム」が、毎回の大きな流れである。

### 自然観察

神社境内および周辺の用水河川、裏山などすべてがフィールドになり、子どもたちに発見を促した。自然観察は、講師とその日のテーマを協議し決定したが、子どもたちの意外な発見が、毎回、続出した。

時には、葉のにおいをかぎ、木の実に口にし、もぐらの穴を掘ってみるなど、子どもたちは五感をフル活用して図鑑や科学絵本ではわかりにくいところを実体験した。逆に、目に見えない部分を本で確認することもあった。



境内藤棚下で、読み聞かせ



境内藤棚下で、本を紹介

### 読み聞かせ

藤棚の木かげにシートを広げ“おおぞらの下”で、前記テーマに合わせた本の読み聞かせを行った。この場でもう一度、自然観察で見たものを本で確認してもらったり、関連した科学絵本や図鑑だけでなく、動植物を主人公にした物語も紹介した。春の会では、神社宮司の話や箏曲による読み聞かせ伴奏で音による季節変化も味わってもらった。



社殿前でシートを広げ、読み聞かせ

### 読書タイム

読み聞かせや紹介した本を自由に見てもらった。相当数の本を持参したので、子どもたちは、はじから広げていた。使用した本は、後日、図書館や小学校に報告の形で一部掲載し、図書館では展示コーナーを設けてもらっている。

## 成果と課題

見過ごしがちな「身近な自然」を確認しながら、その関連書物の楽しみを伝えることができた。また、四季を通して同一箇所で行うことで、「今みているものがどう変化するのか、したのか」季節のうつろいを容易に確認できた。この際に図鑑や科学絵本などは、目の前の事物を補完するツールとして欠かせないものとなった。準備、片付けとも子どもたちがよく手伝ってくれ、回を重ねることで、子どもたちも成長していき、このような効果も得られることを実感した。

春の会では、宮司から文化財の話聞くことで地方史への興味を誘い、「うぐいすのいちもんせん」の読み聞かせでは、箏曲の伴奏が予想以上の臨場感を生み、終了後に子どもたちの「ほっ」というため息が聞かれるなどの手応えを感じた。本物のうぐいすの声が終始聞かれたことも、この野外会場だからできたことだった。

野外での読み聞かせのため、雨天対策、熱射病対策等が課題となる。また「科学関連は手にとらない」子どもたちに、楽しさをいかに伝えて呼び込むかが今後の課題でもある。



拝殿で、琴伴奏つきの読み聞かせ

## 団体の概要

果樹地帯にある笛吹市すがいふるさと図書館での乳幼児向けおはなし会を中心に、小学校での朝読、図書室でのおはなし会、子育てサークルや幼稚園、保育園などへの出前おはなし会も行っている。メンバーの個性を活かしたバリエーション豊かな会を開催している。



# 和ろうそくの夕べ おはなし会

**募集対象** 小1～6年生と父兄／ **活動期間** 平成20年6月21日～平成21年3月22日

**実施団体名** NPO法人 みのお地域循環デザインセンター  
**連絡先** 〒839-1213 福岡県久留米市田主丸町益生田774-2  
 TEL:0943-73-1749  
 E-mail:info@e-w2.com URL:http://minoudc.blogspot.com

## 活動の概要

月あかりやろうそくの灯火のもと、普段と異なる環境の中でお話を開催した。古民家や野外などのゆったりとした時間や空間の中で日本の四季や伝統を五感で感じてもらうため、アーティストなどの協力を得て子供たちの心に残る物語と風景作りに工夫し、夏至・秋分・冬至・お花見の季節の日の夜に開催した。

## 活動の内容

小学校1年生～6年生およびその父兄を対象に、夏至6/21(土)・十五夜9/14(日)・冬至12/21(日)・桜の咲く頃3/22(日)の夜に、地元の伝統的な燭口ウソクの復元を試みている「松山燭復活委員会」の協力で、和ろうそくを提供してもらい、初回には燭口ウソクの歴史や文化について詳しく説明し、人工的な光源を排除して、全ての会場で燭口ウソクを灯して読み聞かせ会を開催した。年間を通じて地元の小学校で読み聞かせをやっているお母さん、図書館司書の語り・手あそび、昭和初期の紙芝居作品の語り手などが季節に合わせた絵本や作品を選び実施した。



ろうそくの原料となる燭の実を説明



秋分の日のおはなし会の様子

取り上げた主な作品は次の通り。

### 夏至:

地元産燭ろうそくの解説・  
「ゆうれいとすいか」など

### お月見:

「黄金バット」  
「おつきさまこんにちは」など

### 冬至:

「パンプキン(写真絵本)」  
「うしかたとやまんば」など

### お花見:

「ふしぎなナイフ」  
「ふしぎなでまえ」など



冬至の日のおはなし会の様子

毎回オカリナ演奏家の大熊政博氏の四季折々の季節の曲の演奏と、その季節ごとのおやつを用意し、親子共により季節を深く感じ取れるよう工夫を凝らした。

## 成果と課題

初回に地元の子供会や学童保育所などにチラシを配布して参加を募集したところ、子どもの中で広く伝わり早々と募集定員に達したため、急遽チラシの配布を中止した。このため2回目以降は、より多くの参加者が許容できる会場を設定した。

初回の燭口ウソクの解説で、日本を代表する優良な燭口ウソクの原料となる品種が地元存在したこと、また、今は途絶えてしまったその品種の復元活動についてや、燭口ウソクがかつての日本人の生活の中でどれだけ重要な役割を果たしていたかという話を地元の子供たちに伝えたことは、お話というよりも秀逸な地元の環境学習教材が確立したと感じた。

地方の農村に住んでいても子供たちの日常は忙しく、季節の変わり目やその時々日本の文化に触れる機会はなかなか少ないのが現実で、今回の企画によってろうそくや月あかりなど幻想的な雰囲気の中での語り手の声や、絵本のページをめくる音、日本の良き童謡や民謡のオカリナの音色、風が運ぶ季節の香りなど、受け手が五感を使ってさまざまな刺激を受感できたのではないかと思う。

当団体は平成21年6月末に解散したため、この活動を継続することは困難となったが、それぞれの担い手や会場が形を変えてこのような会を設ける新たな展開に期待したい。

## 団体の概要

福岡県の耳納連山北麓地域で、地域の景観保全・循環型の暮らしの提案などの活動を中心に、地元特産の柿が温暖化の影響等で出荷されず捨てられてしまうことを知り、柿ソース・柿酢サイダー・柿飴などの商品開発および関連した体験学習や農村振興などを展開。なお、当団体は平成21年6月末に解散した。



# ドリーム読書プラン21

**募集対象** 聴覚障害者と保護者 おはなしボランティア / **活動期間** 平成20年4月26日～12月23日

**実施団体名** 子ども読書活動ネットワーク白山  
**連絡先** 〒924-0872 石川県白山市古城町1 白山市立松任図書館内  
 TEL:076-274-9877 FAX:076-274-5401  
 E-mail:library@lib.city.hakusan.ishikawa.jp

## 活動の概要

「白山市子ども読書活動推進計画」に基づいて、子ども自身に働きかける読み聞かせ活動や読み聞かせ活動などを支援する講習会のほか、読書の魅力についてを伝える講演会など、子どもの読書環境づくりを支援する活動を実施しました。

## 活動の内容

### ◆かみしばいがやってくる

「おはなし」に興味をもってもらうことを目的に、児童館など日頃子どもたちが多く集まる3会場で出前紙芝居を実施し、図書館の利用などもアピールしました。



かみしばいがやってくる

### ◆手とおはなしの会

「聴覚障害児を対象としたろう者の手話による絵本の読み聞かせ活動」のことで、原則、毎月第4土曜日に開催しました。公立図書館を会場とする活動としては全国初の試みで、2004年から継続して実施しており、市外からも多くの聴覚障害児が参加しています。

また、この活動を更に支援するために年1回ワークショップを開催しており、本年は聴覚障害児への指導



手とおはなしの会ワークショップ

経験を重ねているろう者を講師に招いて、小学校中高学年に焦点を当てた本の選択方法のほか、手話による読み聞かせの専門知識や技術について学びました。

### ◆ブックトーク講習会

例年よりも少し上の年齢層の子どもたちを対象に、より直接的に本への興味を喚起することを目的として、ブックトークについての講習会を開催しました。全国的にも著名なブックトーカーを講師に招いて、午前中は実演を交えた講義を受講、午後は参加者が事前に用意したブックリストをもとに10分程度のミニブックトークの実技演習を行い、講師の講評を受けました。



ブックトーク講習会

### ◆おはなし講習会

新規のおはなしボランティアの養成を目的とした初心者向けの講習会で、地元でおはなし会活動をしている方を講師として、本の選び方やおはなし会の組み立て方などを学びました。



おはなし講習会

### ◆ドリーム読書プラン21講演会

中高生の読書意欲の喚起を目的に、翻訳家であり「12歳からの読書案内」の監修でもある金原瑞人氏を講師に招き、監修された本と同じ演題で、自身の体験などを踏まえた講演をしていただき、質疑応答でも大変賑わいました。



講演会「12歳からの読書案内」

## 成果と課題

団体として活動を始めてから5年目という区切りの年でもあることから、読書離れの激しいヤングアダルト層を対象とした活動をメインに据えて計画し、参加者からは好評を受けましたが、スケジュール調整の失敗で学校行事と重なることが少なからずあり、日程的に参加したくても参加できない子どももいたことが非常に悔やまれます。この反省を踏まえたうえで、より多くの子どもの読書支援につながる活動を続けていけるよう努力していきたいと思えます。

## 団体の概要

子ども読書活動推進計画の策定メンバーが中心となって2004年7月に発足。市内外の読み聞かせボランティアなどとネットワークを形成して、子どもの自発的な読書活動のための啓発活動を行っている。

# Po絵夢読書活動(アニメーション講座)

募集対象 大人／ 活動期間 平成20年8月3日

実施団体名 おはなし文庫Po絵夢  
連絡先 〒089-0011 鹿児島県鹿屋市打馬2-19-10  
TEL:0994-44-6441 FAX:0994-44-6441

## 活動の概要

本の世界をイキイキ、ワクワク探検しよう」ということで読書を楽しむ手法のひとつ「アニメーション講座」を実施した。小・中学校の先生方にも呼びかけて子どもたちの読書への興味や関心を効果的な方法で導いていくにはどうしたらいいのかを学んだ。午前と午後にわたり絵本や児童書等を使っての実践講座を行った。

## 活動の内容

### 「アニメーション講座へようこそ」

講師 岩辺泰史氏  
2008年8月3日  
鹿屋市中央公民館にて

#### ◆午前の部

はじめに岩辺先生が最初に出会った本「次郎物語」の思い出や、読書はことばを蓄え思考を深く豊かにしてくれると語られた。次にアニメーションの意味などを学んだ。その後絵本を5冊(下記)紹介されて本の一部を読み合わせしたり内容をクイズ形式で解答したりした。

- ①てじな  
土屋富士夫作
- ②ユッケモーモー  
ジュリエット・ダラス＝コンテ文  
たなかあきこ訳
- ③しゅくだい  
宗正美子原案  
いもとようこ文絵
- ④きちょうめんななまけもの  
ねじめ正一詩  
村上康成絵
- ⑤ちよつとまって  
岸田今日子作



クイズ形式の遊び方の説明

#### ◆午後の部

4、5人のグループに分かれて活動した。「ネコのタクシー」(南部和也作)の本を用いて話の内容とさし絵を組み合わせるゲームをしたり「大砲の中のアヒル」(ジョイ・コウレイ作)では登場人物の特徴や行動をクイズ形式で当てグループごとに得点を競い合った。例えば5人が前に出て質問に答えてもらう。答えは「バツ」と「ノーコメント」だけにして表情や口調等を観察し、人名を当てていくというやり方。

最後に外国のアニメーションのやり方やスポーツや美術の中にも導入されていることを学んだ。ある美術では見る人も参加できる参加型展示もあるとのことだった。



絵本や児童書を使ってクイズを楽しむ



実践内容の説明

## 成果と課題

「アニメとは魂・生命、アニメーションとはアニメに息を吹き込むことー魂が生き生きと活動すること」・・・言葉の意味からまず学ぶことができた。講師から出されるクイズや質問を仲間と話し合い発表する時間はとても楽しく小さなさし絵ひとつも見落とせないスリリングな時間であった。好奇心と推理力と仲間との協同作業で展開していくアニメーション講座は一冊の本を丸ごと楽しむという新しい読書のあり方だ。この講座を通して本の素晴らしさを子どもたちと共有し又子どもたちの読む力や読書のよるこびを引き出すための仲介役になれたら・・・と思った。

課題としては当地域では初めての講座で馴染みが薄く募集人数を下回ってしまった点があげられる。特に小・中学校の先生方からは夏休みの日曜日は日程調整が難しいという声があり今後の検討課題にして次回へつなげていきたい。

## 団体の概要

鹿屋市立図書館内にて毎月第2、4の金曜日A.M.10:30～11:00まで絵本の読み聞かせ・わらべうた・手遊び・紙芝居・ペープサート等行っている。依頼があれば保・幼・小・中学校にも巡回している。地元のコミュニティFM局で本の朗読も行っている。又かくれが文庫として毎月第4日曜日メンバーの自宅を開放している。



# 音のふしぎがいっぱい!音の魔法使いキッズ

**実施団体名** 特定非営利活動法人人財育成支援センター  
**連絡先** 〒274-0073 千葉県船橋市田喜野井5-21-10  
 TEL:047-461-6642 FAX:047-461-6642  
 E-mail:htc@npo-htc.or.jp URL:http://www.npo-htc.or.jp

## 教材の概要

音あそびを通じて、音楽の要素となる「表現することの楽しさ」や感受性を高めてもらう教材です。身近すぎて普段気にも留めていなかった「音」が、ちょっと意識することで大変興味深いものになり、それをきっかけとして理科が好きになったり、魔法を見た子どもがワクワクし、「なんで?」という疑問を持ち、自分で調べたいと思うような探究心を養う糸口を提供するものです。一方的に知識を与える教材ではなく、自分から身近な音を探したり、音づくりを体験できるヒントを加え、これをきっかけに親子やお年寄りとのコミュニケーションがはかれるよう工夫しました。

## 教材の活用法

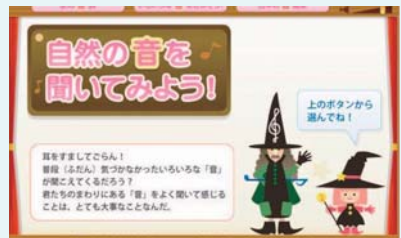
「音」はあまりにも身近にありすぎて、普段は意識することも少ないと思います。どこにもあるものであるため、何の準備もいらず、どこでも体験し、考えることができる最良の教材です。そこで本教材は、「音」を専門的な学術的な説明は極力避け、平易に解説し、疑問も投げかけ、子供たちが興味をもって自分からその世界をひも解くことができるよう制作しました。

音とパズルを組み合わせたゲームにはじまり、自然映像を使った音の変化体験、音に耳を傾けるためのシミュレーションとクイズ、音のデータベース、身近にある道具による音の創作体験、自分の発見した音をみんなに知らせる掲示板といった、「音」の世界を「聞く」「遊ぶ」「知る」「教える」の4つのパートで

構成し、知識と連動して体験活動に結びつける仕組みを提供しました。これらの体験には、子どもだけでは出来ないことも含まれています。大人がついていて一緒に作業をすることも大切なことと考えます。誰もが知っている、身近な「音」の話題を通して、インターネットを経由して親子や大人とのコミュニケーションツールとしての役割が出来ることと思います。



トップページ



「聞く」のコーナー



「知る」のコーナー



「遊ぶ」のコーナー

## 教材の普及状況

当団体と関係するNPOポータルサイト、NPOネットワーク等やその関連の組織を活用して、サイトの紹介を展開し、特に子どもの健全育成を図る活動、社会教育の推進を図る活動、科学技術の振興を図る活動をおこなっているNPOに強くアピールしていきます。

また、当団体会員の関係する教育機関等(主に小学校や教育委員会)において、課外学習、自由研究等に使用できる教材として案内および利用方法の提案をしていきます。

子どもたちが自分の目線で考え、発見したことをみんなに伝えようという意識を持つよう、掲示板が設置されています。当サイトにアクセスし、自分目線での書き込みがなされることが成果であるといえましょう。と、同時に書き込み数の推進が最大の課題であるといえます。



書き込んで情報交換する掲示板



オープニングの音のパズル

## 団体の概要

特定非営利活動法人人財育成支援センターは、「人材は人財である」をテーマに、社会体験による就職支援、小中高生への早期人材育成支援、社会・芸術・文化に関わるさまざまな支援活動を通して、「人づくり」に関わる事業を展開しております。人が人を呼び、人が人を育てる明るい社会を目指しています。



## 平成20年度助成活動で開発された教材一覧

教材の名称	HPアドレス	開発団体名(問合せ先)
草花は最高のあそび友だち -草花あそびから植物採集まで-	<a href="http://kagaku.sakura.ne.jp/">http://kagaku.sakura.ne.jp/</a>	科学するところを育てる会
集団遊びでからだづくり・友だちづくり-伝承遊び・その2-	<a href="http://www.7b.biglobe.ne.jp/~npo-gifu-rec/">http://www.7b.biglobe.ne.jp/~npo-gifu-rec/</a>	特定非営利活動法人 岐阜県レクリエーション協会
お米でゴー!私たちの主食であるお米のすばらしさを再発見しよう	<a href="http://foodapproach.com/">http://foodapproach.com/</a>	日本食文化環境研究所
子ども料理科学教室・実験プログラム	<a href="http://www.csij.org/">http://www.csij.org/</a>	特定非営利活動法人 市民科学研究室
草花あそび塾(じゅく)	<a href="http://www.zenshi.jp/">http://www.zenshi.jp/</a>	全国公立視聴覚センター連絡協議会
民話~日本語で語りつがれているエコロジーのはなし	<a href="http://www.eco-online.org/">http://www.eco-online.org/</a>	特定非営利活動法人 エコロジーオンライン
子どもの居場所づくり支援教材「みんなて遊ぼう、わらべうた遊ぼう」	<a href="http://www.nihonwarabeuta.jp/index.html">http://www.nihonwarabeuta.jp/index.html</a>	特定非営利活動法人 日本わらべうた協会
「詩人と遊ぼう ~子どもたちが詩人になる~」	<a href="http://read.cyber-poetry.jp/vol6/index.php">http://read.cyber-poetry.jp/vol6/index.php</a>	コミュニケーション未来研究会
恐竜博士になろう!	<a href="http://dino.iexam.jp/">http://dino.iexam.jp/</a>	勝山郷土研究会
「アイヌ民族博物館アイヌ語アーカイブス -祖父母の物語を子どもたちへ-」	<a href="http://www.ainu-museum.or.jp/">http://www.ainu-museum.or.jp/</a>	財団法人 アイヌ民族博物館
院内課外活動教材ライブラリー	<a href="http://www.minkyo.or.jp/">http://www.minkyo.or.jp/</a>	財団法人 民間放送教育協会
音をきこう つくろう 楽しもう	<a href="http://www.c-c-cnet.org/">http://www.c-c-cnet.org/</a>	特定非営利活動法人 ZEROキッズ
地図でアドベンチャー -ヴァーチャル・オリエンテリングで地図の使い方をマスター-	<a href="http://www.orientteering.or.jp/">http://www.orientteering.or.jp/</a>	社団法人 日本オリエンテリング協会
森の恵み、地域の恵み再発見 -信濃の国で物語をつくろう-	<a href="http://megumi.midori-joho.gr.jp/">http://megumi.midori-joho.gr.jp/</a>	財団法人 長野県緑の基金
ニッポンおもしろマップ 地図でわかる日本のあっちこっち	<a href="http://www.ernet.jp/">http://www.ernet.jp/</a>	特定非営利活動法人 教育改革ネット
きみの町の”お宝じまん” お宝さがしにでかけよう!	<a href="http://www.javea.or.jp/">http://www.javea.or.jp/</a>	財団法人 日本視聴覚教育協会
季節でかわる自然のふしぎ探検 -みんなのできる楽しい理科教材-	<a href="http://www.j-muse.or.jp/">http://www.j-muse.or.jp/</a>	財団法人 日本博物館協会
子どもたちの職業観を育成するe-手仕事図鑑	<a href="http://www.gakujoken.or.jp/">http://www.gakujoken.or.jp/</a>	財団法人 学習ソフトウェア情報研究センター
「一人ひとりの教育ニーズに応じるデジタル読み書き支援」 副題 「特別支援を必要とする子どものための保護者支援オーダーメイド教材作成システム」	<a href="http://www.e-kokoro.ne.jp/ss/r/">http://www.e-kokoro.ne.jp/ss/r/</a>	特別支援教育デザイン研究会
森の達人アーカイブ -自然体験活動の「技」を学ぼう-	<a href="http://www.gakujoken.jp/nintei_kikou/">http://www.gakujoken.jp/nintei_kikou/</a>	特定非営利活動法人 日本デジタル・アーキビスト資格認定機構
音のふしぎがいっぱい! 音の魔法使いキッズ	<a href="http://www.npo-htc.or.jp/">http://www.npo-htc.or.jp/</a>	特定非営利活動法人 人財育成支援センター
「自然環境シミュレーター『ビオトープ』をつくろう!(Ver-2.0)	<a href="http://biotop.hitohaku.jp/">http://biotop.hitohaku.jp/</a>	兵庫総合学習支援研究会
ことわざで学ぶ”心・言・装・行”日本の智慧	<a href="http://www.kimono-consul.org/">http://www.kimono-consul.org/</a>	社団法人 全日本きものコンサルタント協会
ことわざでわかる!?明日の天気 -観天望気のひみつ-	<a href="http://www.social-edu.com/">http://www.social-edu.com/</a>	財団法人 全日本社会教育連合会
元気に遊ぼう!リズムでゲーム	<a href="http://www.zenshi.jp/">http://www.zenshi.jp/</a>	全国視聴覚教育連盟
「環境劇を作ろう!」	<a href="http://www.fringe-tp.net/engekide/">http://www.fringe-tp.net/engekide/</a>	特定非営利活動法人 フリンジシアタープロジェクト
ユビキタスおもしろバイオ教室	<a href="http://www.gakujoken.or.jp/omoshiroB/index.html">http://www.gakujoken.or.jp/omoshiroB/index.html</a>	科学講座研究会:CEMI(セミ)の会
世界自然遺産「屋久島」の生き物	<a href="http://www.umigame-kan.org/">http://www.umigame-kan.org/</a>	特定非営利活動法人 屋久島うみがめ館

# 日中韓子ども童話交流事業

### 事業の概要

日本・中国・韓国の子どもたちが一堂に会し、各国の絵本・童話を通じて読書の楽しみを知ってもらうとともに、お互いの文化を理解する機会を提供することにより、子どもの読書活動や体験活動の重要性について普及・啓発を図るため、「日中韓子ども童話交流事業実行委員会」を組織し、超党派の国会議員で構成される「子どもの未来を考える議員連盟」(会長:河村建夫)の参画を得て「日中韓子ども童話交流2008」を実施しました。

6回目を迎えた2008年は、小学校4年生から6年生の子どもたち100名(日本50名、中国25名、韓国25名)が集い、北京オリンピックの聖火と阿蘇の火山にちなんだ「炎」をテーマに、東京と熊本を会場として一週間のプログラムに取り組みました。

### 事業の内容

東京の国立オリンピック記念青少年総合センターに参加者が集合し、3カ国混成の10グループに分かれ、オリエンテーションを皮切りに日中韓子ども童話交流事業が始まりました。

翌日は東京・上野の国立国会図書館国際子ども図書館で館内を見学。明治創設の建物には、世界中から児童書や関連資料が集められており、子どもたちは面白そうな絵本を手にとっていました。その後センターに戻った子どもたちは、「炎」を象徴するオレンジ色のTシャツを着て結団式に臨みました。結団式では河村建夫実行委員会事務総長からご挨拶をいただきました。

また福田康夫内閣総理大臣からは、心のこもった祝辞をいただきました。



結団式

熊本・阿蘇では、熊本市生まれの絵本作家、葉祥明さんに阿蘇をテーマにした絵本の読み聞かせをしていただきました。その後、阿蘇の草千里や葉祥明阿蘇高原絵本美術館を訪れ、雄大な阿蘇の自然に触れました。夜には地元の方々による長野岩戸神楽を鑑賞しました。

翌日から、グループごとに手作り絵本制作に取り組み、サル(日本)、パンダ(中国)、トラ(韓国)の3匹の各国を象徴する動物に思いを託して、テーマの「炎」と阿蘇の自然を題材とした10編の絵本が出来上がりました。



絵本の発表会

グループ全員で協力して完成させた世界に一つだけの絵本を舞台上で発表、各グループの夢とロマンあふれる友情物語など、独創的な作品が次々と披露され、感動の輪が広がりました。

解散式では3カ国の子どもたちの代表6人が「日中韓の仲間は、兄弟であり、姉妹です。いつか再会を果たせるよう指きりをしましょう。」と宣言文を発表した後、別れを惜しみながら、再会を誓い各自帰途につきました。

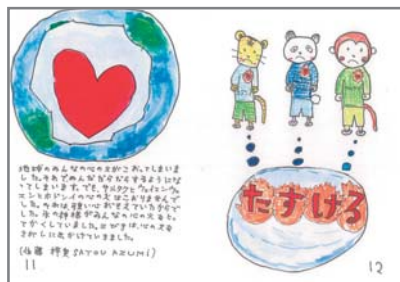


みんなで協力して絵本作り

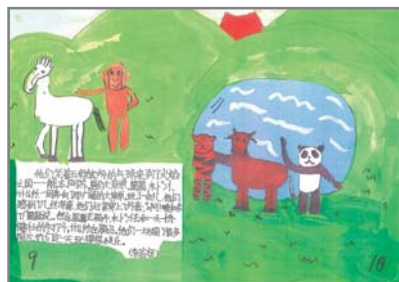
## 世界に一つだけの絵本

3カ国の子どもたちが、日本5名、中国、韓国2~3名の10班に分かれてサル(日本)・パンダ(中国)・トラ(韓国)という、それぞれの国の代表となる主人公に自分たちの気持ちを託し、班ごとでオリジナルのストーリーを協同して考え、1人ひとりが1場面ずつ担当し、世界に一つだけのオリジナル絵本を完成させました。

友情を深め合った1冊の本は、とても大切な思い出として心に刻み込まれたことでしょう。



日本



中国



韓国



# 「子どもゆめ基金」への寄附団体

平成20年度に

「子どもゆめ基金」へご寄附をいただいた方々をご紹介します。

自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日

(あいうえお順・敬称略)

アーバンベンディックスネットワーク 株式会社	アスカ王国ふれあいの旅委員会
茨城LD等発達障害親の会 星の子	株式会社 伊藤園
教育免許状更新講習研究会実行委員会	郷土愛媛と国際社会を考える会
工藤 雄子	コカ・コーラウエストジャパン 株式会社 新見支店
特定非営利活動法人 子ども文化ステーション	株式会社 産経広告社
株式会社 ジャパンビバレッジ	西洋フード・コンパスグループ 株式会社
曾我部 國久	特定非営利活動法人 卓球交流会
東京コカ・コーラボトリング 株式会社	静岡大学 鳥山 優
中川 賀郷	財団法人 永井熊七記念財団
特定非営利活動法人 西日本環境ネットワーク	特定非営利活動法人 日本子守唄協会
乗倉 寿明	株式会社 八洋
株式会社 パワーステーション	前田巨輝チャリティ募金事務局
松下 文治	八幡野地区青少年育成会
株式会社 読売PR	株式会社 ライフ

## 子どもゆめ基金へのご協力を

子どもゆめ基金は、国と民間が協力して青少年教育に関する団体が行う子どもの体験活動や読書活動などの振興を図り、子どもの健全育成に寄与するものです。

このため、個人、企業からもご協力をいただき、基金の拡大を図り、幅広くその活動を支援することとしています。

つきましては、下記の募金口座にて受付しております。広く皆様のご理解とご支援を何卒お願い申し上げます。

### 振替口座

口座番号	00150-5-371382
口座名義	子どもゆめ基金

※振込に便利な振替払込書の中に綴じておりますので、ご利用ください。

### 銀行口座

銀行名	三菱東京UFJ銀行 渋谷支店
口座番号	普通預金3025103
口座名義	子どもゆめ基金

子どもゆめ基金に対するご寄附は、税制上の優遇措置を受けることができます。

## 子どもゆめ基金ガイド2009

2009年9月発行

編集 独立行政法人国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金部

発行 独立行政法人国立青少年教育振興機構

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号

電話 管理・普及課03-6407-7685 助成課:0120-579081

URL <http://yumekikin.niye.go.jp/>

E-mail [yume@niye.go.jp](mailto:yume@niye.go.jp)

「子どもゆめ基金」は独立行政法人国立青少年教育振興機構の登録商標です。

## 教育施設一覧

当機構の全国28施設は、それぞれの地域の立地を活かした様々なプログラムを提供し、多くの青少年の体験活動を支援しています。

### 国立青少年交流の家

- 1 国立大雪青少年交流の家 (北海道美瑛町)
- 2 国立岩手山青少年交流の家 (岩手県滝沢村)
- 3 国立磐梯青少年交流の家 (福島県猪苗代町)
- 4 国立赤城青少年交流の家 (群馬県富士見村)
- 5 国立能登青少年交流の家 (石川県羽咋市)
- 6 国立乗鞍青少年交流の家 (岐阜県高山市)
- 7 国立中央青少年交流の家 (静岡県御殿場市)
- 8 国立淡路青少年交流の家 (兵庫県南あわじ市)
- 9 国立三瓶青少年交流の家 (島根県大田市)
- 10 国立江田島青少年交流の家 (広島県江田島市)
- 11 国立大洲青少年交流の家 (愛媛県大洲市)
- 12 国立阿蘇青少年交流の家 (熊本県阿蘇市)
- 13 国立沖縄青少年交流の家 (沖縄県渡嘉敷村)



国立オリンピック記念  
青少年総合センター  
(東京都渋谷区)

### 国立青少年自然の家

- 1 国立日高青少年自然の家 (北海道日高町)
- 2 国立花山青少年自然の家 (宮城県栗原市)
- 3 国立那須甲子青少年自然の家 (福島県西郷村)
- 4 国立信州高遠青少年自然の家 (長野県伊那市)
- 5 国立妙高青少年自然の家 (新潟県妙高市)
- 6 国立立山青少年自然の家 (富山県立山町)
- 7 国立若狭湾青少年自然の家 (福井県小浜市)
- 8 国立曾爾青少年自然の家 (奈良県曾爾村)
- 9 国立吉備青少年自然の家 (岡山県吉備中央町)
- 10 国立山口徳地青少年自然の家 (山口県山口市)
- 11 国立室戸青少年自然の家 (高知県室戸市)
- 12 国立夜須高原青少年自然の家 (福岡県筑前町)
- 13 国立諫早青少年自然の家 (長崎県諫早市)
- 14 国立大隅青少年自然の家 (鹿児島県鹿屋市)

独立行政法人 **国立青少年教育振興機構**

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1 TEL 03-3467-7201(代表) URL <http://www.niye.go.jp>